

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

学科名: エコ・コミュニケーション科(2年制) 水族館・アクアリスト専攻

授業科目名	授業時間数
水族館研究	60
水生生物飼育管理Ⅰ	120
水生生物飼育管理Ⅱ	120
観賞魚研究Ⅰ	60
魚類研究	60
アニマルベーシック	15
動物の体のしくみ	15
動物の健康管理	15
アニマルヒストリー	15
次世代のための環境教育	30
水生生物研究	60
魚類学実験	120
観賞魚研究Ⅱ	60
アクアビジネス	60
魚病学	30
動物栄養学概論	30
両生・爬虫類研究	60
海洋生態	60
スイムトレーニング	30
船舶免許対策講座2級・特殊	30
船舶免許対策講座1級	30
ダイビング演習	30
潜水土対策講座	30
ライフセービング	60
合計	1200 (80)

※()内は単位数

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	水族館研究 (Aquarium Study)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	中村 雅之
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日2時限

【授業の学習内容】

水族館の社会的役割、水・海水の特性、海水の循環、生物採集に係る関連法律、水族館展示技法、病気の診断と治療などの基礎知識を座学で学び、フィールド調査では、調査、観察、記録方法を学び、考察する力を見につける。

※実務経験者

株式会社 海の中道海洋生態科学館(設立:昭和63年3月17日)。マリンワールド海の中道 館長(2015～)

【到達目標】

水族館の社会的使命を理解し、即戦力として現場が求める知識・技術を学ぶ。また年間4回のフィールド調査を通じて、調査技法、生物採集方法、種同定を実践しながら身に着ける。アマモ移植活動を通して、環境保全活動を理解し、説明できるようにする。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	水族館の役割を理解し、説明できる。
2回目	水・海水の特性、水温躍層を理解し説明できる。
3回目	フィールド演習①アマモ場調査/ヒナモロコ保全活動
4回目	フィールド演習②アマモ場調査/ヒナモロコ保全活動
5回目	フィールド演習③アマモ場調査/ヒナモロコ保全活動
6回目	フィールド演習④アマモ場調査/ヒナモロコ保全活動
7回目	展示生物の採集・輸送方法を説明できる。
8回目	フィールド調査振り返り、海水の循環を説明できる。
9回目	フィールド演習⑤アマモ場調査/ヒナモロコ保全活動
10回目	フィールド演習⑥アマモ場調査/ヒナモロコ保全活動
11回目	フィールド演習⑦アマモ場調査/ヒナモロコ保全活動
12回目	フィールド演習⑧アマモ場調査/ヒナモロコ保全活動
13回目	前期授業の振り返り①
14回目	前期授業の振り返り②
15回目	標本製作方法を説明できる。

準備学習
時間外学習

評価方法

授業態度 20%
筆記試験 80%

【使用教科書・教材・参考書】 □

新・飼育ハンドブック水族館編テキスト

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	水族館研究 (Aquarium Study)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	中村 雅之
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜日2時限

【授業の学習内容】

水族館の社会的役割、水・海水の特性、海水の循環、生物採集に係る関連法律、水族館展示技法、病気の診断と治療などの基礎知識を座学で学び、フィールド調査では、調査、観察、記録方法を学び、考察する力を見につける。

※実務経験者

株式会社 海の中道海洋生態科学館(設立:昭和63年3月17日)。マリンワールド海の中道 館長(2015～)

【到達目標】

水族館の社会的使命を理解し、即戦力として現場が求める知識・技術を学ぶ。また年間4回のフィールド調査を通じて、調査技法、生物採集方法、種同定を実践しながら身に着ける。

授業計画・内容

1回目	展示解説の方法を理解し、説明できる。
2回目	病気の診断と治療について、説明できる。
3回目	フィールド演習⑨アマモ場調査/ヒナモロコ保全活動
4回目	フィールド演習⑩アマモ場調査/ヒナモロコ保全活動
5回目	フィールド演習⑪アマモ場調査/ヒナモロコ保全活動
6回目	フィールド演習⑫アマモ場調査/ヒナモロコ保全活動
7回目	飼育と展示について説明できる。
8回目	水族館の調査・研究活動について説明できる。
9回目	フィールド演習⑬アマモ場調査/ヒナモロコ保全活動
10回目	フィールド演習⑭アマモ場調査/ヒナモロコ保全活動
11回目	フィールド演習⑮アマモ場調査/ヒナモロコ保全活動
12回目	フィールド演習⑯アマモ場調査/ヒナモロコ保全活動
13回目	教育普及活動について説明できる。
14回目	後期評価及び振り返り
15回目	1年間の振り返り

準備学習
時間外学習

評価方法

授業態度 20%
筆記試験 80%

【使用教科書・教材・参考書】 □

新・飼育ハンドブック水族館編テキスト

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	水生生物飼育管理 I (Aquatic Animals and Plants Rearing I)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	芦田 昌浩
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日2時限

【授業の学習内容】

淡水水生生物を飼育管理するうえで必要な、淡水魚種に関する知識・設備及び備品に関する知識・水質管理及び浄化システムに関する知識を自作のテキストを用いて学習する。

※実務経験者

有限会社アクアマイスター代表取締役。創業/平成3年。

●アクアショップ経営(観賞魚・小動物・爬虫類)、小売り販売 ●水槽リース・メンテナンス ●ディスカスブリーダー(ディスカス専門店経営・ブリーディング販売小売り・卸売り・輸出)

【到達目標】

淡水水生生物飼育に必要な飼育設備、水質維持管理に関する基礎知識を習得し、飼育に必要な環境を整え飼育管理を行えるようになる。基礎知識を生かし、様々な飼育法に応用できるようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	自己紹介。1年間を通して行う授業内容及び方法の説明。自作テキスト資料配布。
2回目	淡水観賞魚の概要説明。淡水観賞魚商業養殖について。
3回目	淡水魚の分類、学名について。
4回目	淡水水生生物飼育に必要な器材/水槽に関する知識。
5回目	淡水水生生物飼育に必要な器材/濾過フィルター・濾過材・濾過バクテリアに関する知識。
6回目	淡水水生生物飼育に必要な器材/照明器具・保温器具・底砂に関する知識。
7回目	淡水水生生物飼育に必要な器材/その他設備、備品に関する知識。
8回目	水槽の設置・立ち上げ・生体導入方法について。
9回目	濾過フィルターの仕組みについて/水槽飼育と自然界との違いについて。
10回目	水質検査の必要性について。pH・NO ₂ ⁻ ・NH ₃ /NH ₄ ⁺
11回目	水槽メンテナンスの基本知識
12回目	水質検査方法(pH・NO ₂ ⁻ ・NH ₃ /NH ₄ ⁺)及び水質異常時の対処法について。
13回目	水槽維持管理についてのまとめ。
14回目	前期評価及び前期振り返り①。
15回目	前期振り返り②。

**準備学習
時間外学習**
生物の飼育は日々観察することが重要。自分の水槽は毎日必ず生体の状態及び飼育設備をよく観察し、異常がある場合は速やかに対処すること。水生生物の飼育法は様々なため、様々な飼育法を理解できるように常日頃実習室全ての水槽設備をよく観察し理解できるようにすること。できる限りショップ・水族館の見学を行い、それぞれの飼育法の違い、生体の状態の違いをよく観察すること。

評価方法
■ 授業態度 : 30%
■ 筆記試験 : 70%

【使用教科書・教材・参考書】 □

芦田自作テキスト

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	水生生物飼育管理 I (Aquatic Animals and Plants Rearing I)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	芦田 昌浩
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜日2時限

【授業の学習内容】
淡水水生生物を飼育管理するうえで必要な、淡水魚種に関する知識・設備及び備品に関する知識・水質管理及び浄化システムに関する知識を自作のテキストを用いて学習する。

※実務経験者
有限会社アクアマイスター代表取締役。創業/平成3年。
●アクアショップ経営(観賞魚・小動物・爬虫類)、小売り販売 ●水槽リース・メンテナンス ●ディスカスブリーダー(ディスカス専門店経営・ブリーディング販売小売り・卸売り・輸出)

【到達目標】
淡水水生生物飼育飼育管理に必要な全般的な知識に理解を深め、突発的に起こる様々なトラブルシューティングを迅速且つ適格に行えるようになる。

授業計画・内容	
1回目	淡水魚の病気と治療/感染性の病気と非感染性の病気について
2回目	淡水魚の病気と治療/病気の種類(ウイルス・細菌・寄生虫)
3回目	淡水魚の病気と治療/病種別治療法①
4回目	淡水魚の病気と治療/病種別治療法②
5回目	淡水魚の病気と治療/薬使用時の注意点・塩の効能
6回目	水草の育成法/二酸化炭素(CO ₂)について
7回目	水草の育成法/照明について
8回目	水草の育成法/底床・濾過フィルター・肥料について
9回目	水草の育成法/夏と冬の管理について
10回目	藻類各種の発生原因と種類別対処法/珪藻類・糸状藻類
11回目	藻類各種の発生原因と種類別対処法/ヒゲ状藻類・藍藻・アオコ
12回目	巻貝やプラナリアなどの発生予防と駆除法
13回目	水草のレイアウト/構図・水草の選択・植栽・トリミング
14回目	後期評価及び後期振り返り①
15回目	後期振り返り②
準備学習 時間外学習	生物の飼育は日々観察することが重要。自分の水槽は毎日必ず生体の状態及び飼育設備をよく観察し、異常がある場合は速やかに対処すること。水生生物の飼育法は様々なため、様々な飼育法を理解できるように常日頃実習室全ての水槽設備をよく観察し理解できるようにすること。できる限りショップ・水族館の見学を行い、それぞれの飼育法の違い、生体の状態の違いをよく観察すること。
評価方法	■授業態度:30% ■筆記試験:70%
【使用教科書・教材・参考書】 □	
芦田自作テキスト	

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	水生生物飼育管理 I (Aquatic Animals and Plants Rearing I)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	林 峻秀
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜日1時限
【授業の学習内容】 淡水に生息する生き物を担当水槽にて飼育し、飼育に必要な知識、飼育水槽の管理方法、及び飼育水のろ過サイクルを知る。 ※実務経験者 福岡ECO講師 指導歴3年(2016.03.16～) 前職/株式会社 名東水園							
【到達目標】 担当水槽を使用し、生物の飼育方法を学び、飼育水槽の管理方法を理解する。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	実習室の使用方法・授業説明
2回目	担当水槽の使用説明
3回目	水槽立ち上げ準備
4回目	水槽立ち上げ・水槽管理日誌記入指導
5回目	換水作業・水質検査・pH測定器使用方法解説
6回目	コケ取りの実演 使用道具の注意点説明
7回目	水槽管理①
8回目	水槽管理② 中間評価
9回目	水槽管理③ 中間評価
10回目	ろ過フィルターの洗浄解説、ろ過フィルター洗浄
11回目	水槽管理④ ろ過フィルター洗浄
12回目	水槽管理⑤
13回目	水槽管理⑥
14回目	水槽管理⑦
15回目	塩素漂白の実演、解説
準備学習 時間外学習	担当水槽内で飼育する生体の選択、飼育生体の日常管理。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■授業態度:30% ■担当水槽のメンテナンス状況:70%
【使用教科書・教材・参考書】 □	
60cm水槽一式	

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	水生生物飼育管理 I (Aquatic Animals and Plants Rearing I)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	林 峻秀
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 曜日・時限 火曜日1時限
【授業の学習内容】							
淡水に生息する生き物を担当水槽にて飼育し、飼育に必要な知識、飼育水槽の管理方法、及び飼育水のろ過サイクルを知る。							
※実務経験者 福岡ECO講師 指導歴3年(2016.03.16～) 前職/株式会社 名東水園							
【到達目標】							
担当水槽を使用し、生物の飼育方法を学び、飼育水槽の管理方法を理解する。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	水槽管理①/外部フィルターメンテナンス
2回目	水槽管理②/二酸化炭素点火装置解説及び設置
3回目	水槽管理③/生体発注
4回目	水槽管理④/生体納品・導入
5回目	水槽管理⑤/水草配布 植栽指導
6回目	水槽管理⑥/Co2ストーン洗浄
7回目	水槽管理⑦
8回目	水槽管理⑧/中間評価・解説指導
9回目	水槽管理⑨/中間評価
10回目	水槽管理⑩/フィルターメンテナンス
11回目	水槽管理⑪/水草トリミング
12回目	水槽管理⑫
13回目	水槽管理⑬/期末評価・解説指導
14回目	水槽管理⑭/期末評価・解説指導
15回目	水槽管理⑮/担当水槽リセット解説
準備学習 時間外学習	担当水槽内で飼育する生体の選択、飼育生体の日常管理。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■授業態度:30% ■担当水槽のメンテナンス状況:70%
【使用教科書・教材・参考書】 □	
60cm水槽一式	

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	水生生物飼育管理Ⅱ (Aquatic Animals and Plants Rearing Ⅱ)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	芦田 昌浩
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日3時限

【授業の学習内容】

実際に海水水槽の管理をグループで行い、管理に付随してくる事柄に関して演習形式で指導を行う。

※実務経験者

有限会社アクアマイスター代表取締役。創業/平成3年。

●アクアショップ経営(観賞魚・小動物・爬虫類)、小売り販売 ●水槽リース・メンテナンス ●ディスカスブリーダー(ディスカス専門店 経営・ブリーディング販売小売り・卸売り・輸出)

【到達目標】

海水水槽オーバーフローシステム水槽の取り扱い及び管理法を習得する。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	各水槽システム取り扱い説明・人工海水の作り方
2回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
3回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
4回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
5回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
6回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
7回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
8回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
9回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
10回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
11回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
12回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
13回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
14回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
15回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
準備学習 時間外学習	生物の飼育は日々観察することが重要。学校内全ての水槽を毎日必ず生体の状態及び飼育設備をよく観察し、異常がある場合は速やかに対処すること。水生生物の飼育法は様々ですので、様々な飼育法を理解できるように平日頃実習室全ての水槽設備をよく観察し理解できるようにすること。できる限りショップ・水族館の見学を行い、それぞれの飼育法の違い、生体の状態の違いをよく観察すること。
評価方法	■ 授業態度:30% ■ 水槽のメンテナンス状況:70%

【使用教科書・教材・参考書】 □

なし

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	水生生物飼育管理Ⅱ (Aquatic Animals and Plants Rearing Ⅱ)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	芦田 昌浩
	専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】

海水魚を飼育管理するうえで必要な、海水魚に関する知識・設備及び備品に関する知識・水質管理及びオーバーフローシステムに関する知識を自作のテキストを用いて学習する。

※実務経験者

有限会社アクアマイスター代表取締役。創業/平成3年。

●アクアショップ経営(観賞魚・小動物・爬虫類)、小売り販売 ●水槽リース・メンテナンス ●ディスカスブリーダー(ディスカス専門店経営・ブリーディング販売小売り・卸売り・輸出)

【到達目標】

海水魚飼育に必要な飼育設備、水質維持管理に関する基礎知識を習得し、飼育に必要な環境を整え飼育管理を行えるようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	年間授業進行内容説明・自作テキスト配布
2回目	海水魚飼育法/淡水魚飼育との相違点(水温と水質・アンモニアの毒性・体の違い・溶存酸素)
3回目	海水水生生物飼育に必要な器材/塩分濃度計・人工海水
4回目	海水水生生物飼育に必要な器材/紫外線殺菌灯・プロテインスキマー
5回目	海水水生生物飼育に必要な器材/クーラー及びポンプの選定計算方法
6回目	オーバーフローシステム概要
7回目	オーバーフローシステム配管の見方及び操作方法について
8回目	海水水生生物飼育設備における安全面への配慮
9回目	人工海水の作り方と天然海水との違いについて
10回目	海水魚の分類
11回目	ライブロックについて/ワシントン条約
12回目	海水水槽の立ち上げ、生体導入方法/淡水水槽との相違点
13回目	海水水槽の日常管理
14回目	前期評価及び前期振り返り①
15回目	前期振り返り②
準備学習 時間外学習	生物の飼育は日々観察することが重要。学校内全ての水槽を毎日必ず生体の状態及び飼育設備をよく観察し、異常がある場合は速やかに対処すること。水生生物の飼育法は様々ですので、様々な飼育法を理解できるように常日頃実習室全ての水槽設備をよく観察し理解できるようにすること。できる限りショップ・水族館の見学を行い、それぞれの飼育法の違い、生体の状態の違いをよく観察すること。
評価方法	■ 授業態度:30% ■ 筆記試験:70%

【使用教科書・教材・参考書】 □

芦田自作テキスト

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	水生生物飼育管理Ⅱ (Aquatic Animals and Plants Rearing Ⅱ)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	芦田 昌浩
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜日3時限

【授業の学習内容】

実際に海水水槽の管理をグループで行い、管理に付随してくる事柄に関して演習形式で指導を行う。

※実務経験者

有限会社アクアマイスター代表取締役。創業/平成3年。

●アクアショップ経営(観賞魚・小動物・爬虫類)、小売り販売 ●水槽リース・メンテナンス ●ディスカスブリーダー(ディスカス専門店経営・ブリーディング販売小売り・卸売り・輸出)

【到達目標】

グループ作業においてコミュニケーション能力を身に付ける。各水槽システムの作業内容を把握し、作業効率を考慮した行動能力を身に付ける。海水水生生物各種其々の飼育法の違いを理解習得する。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
2回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
3回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
4回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
5回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
6回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
7回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
8回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
9回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
10回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
11回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
12回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
13回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
14回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
15回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
準備学習 時間外学習	生物の飼育は日々観察することが重要。学校内全ての水槽を毎日必ず生体の状態及び飼育設備をよく観察し、異常がある場合は速やかに対処すること。水生生物の飼育法は様々ですので、様々な飼育法を理解できるように平日頃実習室全ての水槽設備をよく観察し理解できるようにすること。できる限りショップ・水族館の見学を行い、それぞれの飼育法の違い、生体の状態の違いをよく観察すること。
評価方法	■授業態度:30% ■水槽のメンテナンス状況:70%

【使用教科書・教材・参考書】 □

なし

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	水生生物飼育管理Ⅱ (Aquatic Animals and Plants Rearing Ⅱ)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	芦田 昌浩
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜日4時限

【授業の学習内容】
造礁サンゴを飼育管理するうえで必要な、造礁サンゴに関する知識・設備及び備品に関する知識・水質管理及び造礁サンゴ飼育システムに関する知識を自作のテキストを用いて学習する。

※実務経験者
有限会社アクアマイスター代表取締役。創業/平成3年。
●アクアショップ経営(観賞魚・小動物・爬虫類)、小売り販売 ●水槽リース・メンテナンス ●ディスカスブリーダー(ディスカス専門店経営・ブリーディング販売小売り・卸売り・輸出)

【到達目標】
造礁サンゴ飼育に必要な飼育設備、水質維持管理に関する基礎知識を習得し、飼育に必要な環境を整え飼育管理を行えるようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	サンゴ分類概要/ソフトコーラル・ハードコーラル(SPS・LPS)
2回目	サンゴ分類概要/好日性・陰日性
3回目	サンゴ飼育に必要な環境と水質/水温・水流について
4回目	サンゴ飼育に必要な環境と水質/貧栄養化について
5回目	サンゴ飼育に必要な環境と水質/基本水質について(pHとアルカリ度)
6回目	サンゴ飼育に必要な環境と水質/基本水質について(カルシウム濃度)
7回目	基本水質維持方法/バッファ剤と塩化カルシウム
8回目	基本水質維持方法/カルシウムリアクター
9回目	サンゴ飼育に必要な添加剤について/カルシウム・マグネシウム・ストロンチウム・ヨウ素・微量元素
10回目	サンゴ飼育に必要な照明について/メタルハライドランプ・システムLED
11回目	サンゴ飼育の水槽システム/ベルリンシステム概要
12回目	サンゴの色素について/褐虫藻・色素タンパク質・蛍光タンパク質
13回目	海水魚の病気と治療
14回目	後期評価及び後期振り返り①
15回目	後期振り返り②
準備学習 時間外学習	生物の飼育は日々観察することが重要。学校内全ての水槽を毎日必ず生体の状態及び飼育設備をよく観察し、異常がある場合は速やかに対処すること。水生生物の飼育法は様々ですので、様々な飼育法を理解できるように常日頃実習室全ての水槽設備をよく観察し理解できるようにすること。できる限りショップ・水族館の見学を行い、それぞれの飼育法の違い、生体の状態の違いをよく観察すること。
評価方法	■ 授業態度:30% ■ 筆記試験:70%
【使用教科書・教材・参考書】 □	
芦田自作テキスト	

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	観賞魚研究 I (Ornamental Fish I)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	細川 信行
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜日4時限

【授業の学習内容】

観賞魚水槽の立ち上げから飼育、メンテナンスを通して、淡水性観賞魚飼育の基本を実践的に学ぶ。

※実務経験者

aqua shop D-aquarium 代表

【到達目標】

淡水性観賞魚の基本を身に着けるとともに、器具の管理方法、メンテナンス方法、病気の治療方法を習得する
(具体的な目標)

- ①水槽の設置、器具のセッティングなど飼育器具の種類・取扱いについて説明できる
- ②日々の管理(換水・給餌・メンテナンス)について説明できる
- ③トラブル発生時(病気の発生・魚の死亡・飼育水の汚濁・コケの発生)の対応が適切に行える

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	実習室設備説明
2回目	濾過装置の構造説明
3回目	濾過装置配管/注水作業
4回目	メンテナンス器具取扱い方法
5回目	メンテナンス方法解説・実践
6回目	生体導入 水合わせ方法
7回目	濾過装置メンテナンス
8回目	飼育管理演習①
9回目	飼育管理演習②+評価
10回目	コケ・シダ、活着系水草の取り扱い/魅せ方
11回目	飼育管理演習③
12回目	飼育管理演習④+タイマー取り付け・解説
13回目	Co2添加方法解説
14回目	飼育管理演習④+評価試験(水槽評価)
15回目	飼育管理演習⑤+Co2配管

準備学習
時間外学習

評価方法

- 水槽評価 魚の状態 コケ落とし、水の透明度 器具のメンテナンスが適切に行われているか(50%)
- 授業内評価 迅速かつ的確なメンテナンスができているか(50%)

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	観賞魚研究Ⅰ (Ornamental Fish Ⅰ)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	細川 信行
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜日5時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>淡水性観賞魚の水槽を管理しながら、より観賞価値の高い水槽の制作を行う。主に水草レイアウト水槽の基本を学び、単に魚を飼育するだけでなく、第三者に魅せる水槽の作り方を学ぶ。</p> <p>※実務経験者 aqua shop D-aquarium 代表</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>水草の育成からレイアウトの基本を理解し、観賞価値の高い水槽を制作できる (具体的な目標)</p> <p>①水草の種類、植栽方法 管理方法を説明できる ②水草を育成するための器具の仕組み、取扱いを理解する ③レイアウトの基本を理解し、制作 管理ができる</p>							
授 業 計 画 ・ 内 容							
1回目	水草レイアウトの基本構図						
2回目	前景中景後景 それぞれに適した水草						
3回目	水草のカット トリミング方法						
4回目	トラブル時の対処方法について・コケの駆除とメンテナンスフィッシュ メンテナンス→評価						
5回目	メンテナンス 演習 レイアウト指導						
6回目	メンテナンス 演習 レイアウト指導						
7回目	メンテナンス 演習 レイアウト指導						
8回目	メンテナンス 演習 レイアウト指導						
9回目	メンテナンス 演習 レイアウト指導						
10回目	メンテナンス 演習 レイアウト指導						
11回目	メンテナンス 演習 レイアウト指導						
12回目	メンテナンス 演習 レイアウト指導						
13回目	メンテナンス 演習 レイアウト指導						
14回目	メンテナンス 演習 レイアウト指導						
15回目	レイアウト水槽撤去						
準備学習 時間外学習							
評価方法	<p>●水槽評価 魚と水草の状態 レイアウトの構図 魚との調和 美観意識(50%)</p> <p>●授業内評価 迅速かつ的確なメンテナンスができていないか(50%)</p>						
【使用教科書・教材・参考書】 □							

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	魚類研究 (Fish Biology)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	淵上 信好
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日5時限

【授業の学習内容】

魚類の基礎を触感と生命を感じる材料(標本または生体)で学ぶ。将来直面するであろう場面で、解決・対応するために基礎が大事なのかを繰り返し説明する。また、魚類から派生する、ロープワークと濃度計算は、頭の中だけの知識では人に伝えられない(自分が出来ないと話にならない)ので、出来るまで継続的に指導する。一方、魚類に関わるリアルタイムのニュースは適宜取り上げ解説。企業面接対応の一助とする。なお、下記の④は、重要な記事が見つかり次第、不定期に授業挿入する。

※実務経験者

国土交通省九州地方整備局 遠賀川河川事務所 河川環境保全モニター

【到達目標】

- ①魚類の基礎 ⇒ 体の構造(外形・骨格・内蔵)がある程度説明できる
- ②日本産淡水魚・生体サンプルについて概要を話すことができる
- ③魚類から派生するハンドリングができる
- ④世の中の流れ(魚類・海洋系時事ネタ)を記憶に留めておける

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	①魚類検索スケッチ初級編 ⇒ 魚らしい図が描ける	②日本産淡水魚生体解説1
2回目	①魚類の持つ多様な形と共通点の話 ⇒ 分類の必要性が分かる(目・科までの大枠)	
3回目	①魚類の名称について ⇒ 標準和名、学名、地方名、俗名などがある事と意味を知る	②日本産淡水魚生体解説2
4回目	①魚類の骨格について ⇒ 脊椎動物の動きの基本である骨が、いかに重要であるかを知る。	③ロープワーク1
5回目	①魚類の内蔵(基本解剖1)⇒ 循環器系 ⇒ 心臓と血管は人との比較ができる	②日本産淡水魚生体解説3
6回目	①魚類の内蔵(基本解剖2)⇒ 呼吸器・生殖器系 ⇒ 魚類の雌雄が生まれて直ぐに決まらない事を知る	③ロープワーク2
7回目	■中間評価及び振り返り ⇒ 講師が学生の理解度・興味を把握し前期後半の内容を再構成する	
8回目	①魚類検索スケッチ中級編 ⇒ 部位名称および表記ができる	②日本産淡水魚生体解説4
9回目	①魚類の生息場所と生活型について ⇒ 淡水魚の生活型分類と海水魚の生息場所が理解できる	③魚類濃度計算1(単位の話)
10回目	①魚類の発生について ⇒ 卵から老成魚までの名称と寿命を考える	②日本産淡水魚生体解説5
11回目	①魚類の採集方法と輸送 ⇒ 場と魚種によって採集方法と運搬方法が違う事を知る	③魚類濃度計算2(%、‰、ppm)
12回目	①魚類の進化について ⇒ 生物界における魚類の位置を理解する	②日本産淡水魚生体解説6
13回目	②③④のまとめ ⇒ 濃度計算・ロープワークの集中演習で習得する	
14回目	■期末評価及び振り返り ⇒ 講師が学生の理解度・興味を把握し後期の内容を再構成する	
15回目	①②③④のまとめと、展開 ⇒ 後期に向けて、授業の難易度、マニアック性に関する学生の意見を聞き調整する。	

準備学習 時間外学習	特になし
---------------	------

評価方法	●中間評価 50% ●期末評価 50% (加点アリ)
------	-------------------------------

【使用教科書・教材・参考書】 □

学生が購入したり、常用する参考書はなし。講師が授業毎にレジュメおよび資料を配布する。

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	魚類研究 (Fish Biology)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	洲上 信好
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜日5時限

【授業の学習内容】

前期で学んだ基礎の補填から始め、講師の専門分野(過去から現在進行形の対象種)を加えながら、よりマニアックな視点へと展開して行く。
手法は、前期同様に触感和生命を感じる材料(標本または生体)中心。また、学生が興味・要望のある魚種や視点(切り口)は、講師の守備範囲内(経験魚種・業務あり)で積極的にテーマとする。なお、下記の④に関しては、重要記事が見つかり次第、不定期に授業挿入する。

※実務経験者

国土交通省九州地方整備局 遠賀川河川事務所 河川環境保全モニター

【到達目標】

- ①自分の興味のある魚種(2種でよい)について、人が食いつく話ができる
- ②日本産淡水魚生体解説が一定のレベルで解説ができる
- ③魚類から派生するハンドリングができる
- ④世の中の流れ(魚類・海洋系時事ネタ)に関して、自分の意見が何とか語ることができる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	①魚類の生物学的位置付け ⇒ 魚類の定義、種数等概論の確認	②日本産淡水魚生体解説7
2回目	①講師専門分野・各論1 スナヤツメ ⇒ 無顎類の存在と理解	②日本産淡水魚生体解説8
3回目	①講師専門分野・各論2 タナゴ類 ⇒ 二枚貝への偏利共生と観賞魚としての扱い	②日本産淡水魚生体解説9
4回目	①講師専門分野・各論3 ニホンウナギ ⇒ 大回遊と水産上重要種	③ローブワーク3(釣り糸)
5回目	①講師専門分野・各論4 オンガスジシマドジョウ ⇒ 新種記載とシノニム	②日本産淡水魚生体解説10
6回目	①講師専門分野・各論5 アユ ⇒ 日本を代表する回遊魚の生態	③魚類濃度計算(生物相対サイズ)
7回目	■中間評価及び振り返り ⇒ 講師が学生の理解度・興味を把握し前期後半の内容を再構成する	
8回目	①生態各論1 発光する魚について ⇒ 発光・反射のメカニズム	
9回目	①生態各論2 透明な魚について ⇒ 透明な魚の特長と戦略	
10回目	①知って欲しい重要なグループ1 フグ目 ⇒ 毒の話	②日本産淡水魚生体解説11
11回目	①知って欲しい重要なグループ2 カレイ目 ⇒ カレイとヒラメの違いからの展開	②日本産淡水魚生体解説12
12回目	①外来種問題 ⇒ ショップ業界の罪悪と今後の展開	②日本産淡水魚生体解説13
13回目	学生希望テーマ魚種考察 1 ⇒ 希望の種またはグループの学生発表 & 考察	
14回目	■期末評価及び振り返り ⇒ 講師が学生の理解度・興味を把握し後期の内容を再構成する	
15回目	学生希望テーマ魚種考察 2 ⇒ 学生の視点と講師の経験から対話展開	
準備学習 時間外学習	特になし	
評価方法	●中間評価 50% ●期末評価 50% (加点アリ)	

【使用教科書・教材・参考書】 □

学生が購入したり、常用する参考書はなし。講師が授業毎にレジュメおよび資料を配布する。

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	アニマルベーシック (Basic Animal Study)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	高山清次
	専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】

動物に関する勉強をする場合の生物学的基礎知識を理解することを目的とする。

※実務経験者

麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了/獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 学校長を務める。

【到達目標】

この科目を受講した学生が、基礎生物学の知識を身につけることにより、動物業界で活躍する人材になることを目標としている。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	光合成・食物連鎖、血液の役割・成分・生成、消毒滅菌について理解できる。
2回目	ゾーノーシス、濃度計算と希釈法、バイタルサイン、生体防御システムについて理解できる。
3回目	エイズと免疫、アレルギーと免疫、ワクチンと免疫、外分泌と内分泌、代謝について理解できる。
4回目	五大栄養素、遺伝、繁殖、イヌとネコの交配について理解できる。
5回目	DNA・遺伝子・ゲノム、体細胞クローン動物、外来種、絶滅危惧種について理解できる。
6回目	温暖化、酸性雨、オゾンホール、エコロジー関連の国際条約について理解できる。
7回目	評価及び振り返り
8回目	まとめ
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習 時間外学習	テキストの範囲内を予習・復習する。
---------------	-------------------

評価方法	定期試験:80% 授業態度と参加度:20%
------	-----------------------

【使用教科書・教材・参考書】 □

「ECO業界で役立つ基礎生物(ECO専門基礎科目テキストセット) 株式会社滋慶出版」

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	動物の体のしくみ (Anatomy and Physiology of Animals)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	高山清次
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日4時限

【授業の学習内容】

犬を中心とした基本的な動物の体の構造・骨格や生理的な知識について、理解することを目的とする。

※実務経験者

麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了/獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 学校長を務める。

【到達目標】

犬の体を構成する各臓器の位置、構造、機能をそれぞれ理解することにより、動物の飼養管理や疾病予防に役立つことを目標としている。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	外皮系、消化器系(歯・食道・胃・小腸・大腸・肝臓・胆のう・膵臓)の構造と働きについて理解できる。
2回目	泌尿器系(腎臓・膀胱)、呼吸器系(気管・肺)の構造と働きについて理解できる。
3回目	生殖器系(雄性生殖器・雌性生殖器)、内分泌系(下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎・胸腺)の構造と働きについて理解できる。
4回目	循環器系(心臓・血液循環・リンパ系)、感覚器系(眼球・耳)の構造と働きについて理解できる。
5回目	神経系(脳・脊髄)、筋系(骨格筋・横隔膜)の構造と働きについて理解できる。
6回目	骨格系(骨格)、細胞の構造と働きについて理解できる。
7回目	評価及び振り返り
8回目	まとめ
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	テキストの範囲内を予習・復習する。
評価方法	定期試験:80% 授業態度と参加度:20%

【使用教科書・教材・参考書】 □

「イラストで見る動物の体のしくみ(ECO専門基礎科目テキストセット) 株式会社滋慶出版」

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	動物の健康管理 (Health Management of Animals)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	高山清次
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜日1時限

【授業の学習内容】

動物を飼育するための飼育管理方法、病気やその予防法を理解することを目的とする。

※実務経験者

麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了/獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 学校長を務める。

【到達目標】

動物を飼育するための飼育管理方法、病気やその予防法を理解できている。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	ウオンバット・キツネ・キリン・カンガルーなどの飼養管理について理解できる。
2回目	クマ・タヌキ・ゾウ・ニホンザルなどの飼養管理について理解できる。
3回目	アザラシ・イルカ・ウミガメ・クラゲなどの飼養管理について理解できる。
4回目	イヌ・ネコ・ウサギ・インコ・モルモットなどの飼養管理について理解できる。
5回目	ウシ・ウマ・ニワトリ・ブタなどの飼養管理について理解できる。
6回目	評価及び振り返り
7回目	まとめ
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習 時間外学習	テキストの範囲内を予習・復習する。
---------------	-------------------

評価方法	定期試験:80% 授業態度と参加度:20%
------	-----------------------

【使用教科書・教材・参考書】 □

「イラストで見る動物の飼養管理(ECO専門基礎科目テキストセット) 株式会社滋慶出版」

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	アニマルヒストリー (History of Animals and Human)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	高山清次
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜日1時限

【授業の学習内容】

動物に関する歴史を学び、現代社会において、いかに動物との関係が必要であるかについて理解することを目的とする。

※実務経験者

麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了/獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 学校長を務める。

【到達目標】

この科目を受講した学生が、広い視野と柔軟な考え方をもち、「人と動物のより良い関係」を築くことができる業界人になることを目標とする。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	動物の進化とゲノムDNAの進化について理解できる。
2回目	イエイヌの歴史、人間と家畜の歴史、動物の仕事に携わる者としての倫理を理解できる。
3回目	ペットビジネスの種類を理解し、環境を守る観察と観光について知識を深めることができる。
4回目	動物介在療法(AAT)と動物介在活動(AAA)、動物が人に与える効果について、セラピーに向く動物の育成、ペットロスについて、理解できる。
5回目	牧羊犬、警察犬、救助犬、身体障害者補助犬法、盲導犬、介助犬、聴導犬、ズーノーシスについて理解できる。
6回目	評価及び振り返り
7回目	まとめ
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習 時間外学習	テキストの範囲内を予習・復習する。
---------------	-------------------

評価方法	定期試験:80% 授業態度と参加度:20%
------	-----------------------

【使用教科書・教材・参考書】 □

「動物年表で知るアニマルヒストリー(ECO専門基礎科目テキストセット) 株式会社滋慶出版」

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	次世代のための環境教育 (Environmental Study for Next Generation)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	秀野 真理
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜日3時限

【授業の学習内容】

体験(参加型)学習の指導法理論(人の理解・自然と暮らしの文化)に基づき、環境教育の基礎を学ぶ。
現代社会における環境問題の把握。伝える手法(レポート)を講義の区切りごとに実践。

※実務経験者

元マリンワールド海の中道水族館飼育スタッフ。学芸員・飼育技師などの資格を有している。現在は『つやざき海辺の自然学校・副代表を務めている。

【到達目標】

環境教育の基礎を習得し、興味・関心が持ってもらえる伝え方が出来る様になる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	オリエンテーション 授業説明(自己紹介)
2回目	自然環境問題とは何かを考える
3回目	国内における野生生物の減少
4回目	干潟の役割と、干潟の減少について
5回目	文化財保護法 適応事例より なぜ日本のカブトガニは絶滅危惧種になったのか
6回目	Wise useを考える 「みんなのトンボ池」実施 ※手法1
7回目	国際的な野生生物の消費と減少
8回目	ウナギの減少と養殖から考える海洋問題
9回目	南半球におけるサケの養殖とペンギンの生息地(MSC認証/asc認証)
10回目	野生動物生息数の動的均衡 「Oh! Deer」実施 ※手法2
11回目	野生生物に関わる法律等 ワシントン条約・ラムサール条約等
12回目	エシカル(rspo)
13回目	水族館における環境教育の必要性について
14回目	レポートの書き方・レポート作成
15回目	まとめ

準備学習
時間外学習

評価方法

- レポート 50%
- 授業内提出物 50%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	水生生物研究 (Aquatic Biology)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	淵上 信好
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日5時限

【授業の学習内容】

福岡県内で採集した無脊椎動物生体(実物)を材料として、その生物がなんでその形になっているのか？生き物が織りなす形は、意味があってその形になっているという考え方でスケッチをする。そこから、大まかな分類(グループ分け)や、生息地の条件など基礎的な知識を学んでいく。また、記録を残す習慣を付けてもらいたいので、配布したスケッチブックの講師チェックは評価対象とする。前期は主として河川生物中心で解剖は少なめにする。

※実務経験者

国土交通省九州地方整備局 遠賀川河川事務所 河川環境保全モニター

【到達目標】

- ①無脊椎動物の大まかな(門・目レベル)分類ができる
- ②生体スケッチによってその形に興味を持てるようになる
- ③採集地データから生息環境がイメージできる
- ④世の中の流れ(水生生物の時事ネタ)に関して、自分の意見が言える

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	①②③河川水生昆虫類 1(カゲロウ・カワゲラ)	
2回目	①②③河川水生昆虫類 2(トンボ・その他)	
3回目	①②③エビ・カニ類 1(ヌマエビ類・テナガエビ類)	
4回目	①②③エビ・カニ類 2(サワガニ・モクズガニ)	④時事ネタ 1
5回目	①②③水中カメムシ類 (タイコウチ・オオアメンボ)	
6回目	①②③水生甲虫類 (ゲンゴロウ・ガムシ・ミズスマシ)	
7回目	■中間評価及び振り返り ⇒ 講師が学生の理解度・興味を把握し前期後半の内容を再構成する	
8回目	①②③圃場の三大生きた化石 1(ホウネンエビ)	④時事ネタ 2
9回目	①②③圃場の三大生きた化石 2(カブトエビ・カイエビ)	④時事ネタ 3
10回目	①②③クラゲ 1(ミズクラゲ・アカクラゲ)	
11回目	①②③ 淡水二枚貝 (シジミ類・ドブカイ)	
12回目	①②③ 淡水巻貝 (タニシ類・カワニナ・スクミリンゴガイ)	
13回目	①②③ 淡水の節足・軟体動物門のまとめ	
14回目	■期末評価及び振り返り ⇒ 講師が学生の理解度・興味を把握し後期の内容を再構成する	
15回目	ここまでの生物の学生リクエストテーマ⇒希望種を採集しテーマとする	

準備学習 時間外学習	特になし
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ●中間評価 25% ●期末評価 25% ●ノート評価 50%

【使用教科書・教材・参考書】 □

学生が購入したり、常用する参考書はなし。講師が授業毎にレジュメおよび資料を配布する。

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	水生生物研究 (Aquatic Biology)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	淵上 信好
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 金曜日5時限
【授業の学習内容】							
<p>前期の流れはそのまま継続するが、より生物の解剖や計測を加えていく。1コマ90分しかないため、作業の段取りは常にイメージして貰う。前期と異なり、ハビタット(生物生息場所の単位)を意識した水生生物総合分類、生息環境を織り込んでいく。内容が難しいようであれば、急がず前期の内容に戻る。ただ、本年のフィールドで特徴的な生物はしっかりと取り上げる。</p> <p>※実務経験者 国土交通省九州地方整備局 遠賀川河川事務所 河川環境保全モニター</p>							
【到達目標】							
<p>①自分の興味のある水生生物(2種でよい)について、人が食い付く話ができる ②対象生物の生息場所・採集方法が8割程度は分かる ③生物種に応じた標本方法・行程・危険性を知っている ④授業ノートが習慣になっている</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	イカ・タコ類 1 (基礎編)
2回目	イカ・タコ類 2 (解剖・雑学・利用)
3回目	クラゲ 2 (展開)
4回目	漁港ロープ付着生物 総合分類 1 (奈多漁港)
5回目	タイドプールの棘皮動物 (ウニ・ヒトデ・ナマコ)
6回目	両生類 (アカハライモリ・カスミサンショウウオ)
7回目	■中間評価及び振り返り ⇒ 講師が学生の理解度・興味を把握し前期後半の内容を再構成する
8回目	漁港ロープ付着生物 総合分類 2 (奈多漁港)
9回目	寄生虫(アニサキス・ニベリン条虫)
10回目	海岸打ち上げ生物 ピンポイント解説
11回目	苔類
12回目	海岸打ち上げ生物 総合分類 (海藻をメインに)
13回目	④福岡県侵略的外来種の講師フィールド調査報告 (コウガイセキショウモ・ウォーターマッシュルーム類)
14回目	■期末評価及び振り返り
15回目	学生希望生物をテーマにした授業 2
準備学習 時間外学習	特になし
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ●中間評価 25% ●期末評価 25% ●ノート評価 50%
【使用教科書・教材・参考書】 □	
<p>学生が購入したり、常用する参考書はなし。講師が授業毎にレジュメおよび資料を配布する。</p>	

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	魚類学実験 (Laboratory of Fishes)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	淵上 信好
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜日4・5時限
【授業の学習内容】							
<p>前期は、1年次の「魚類研究」で学んだ基礎を発展させ、普通教室では出来なかったテーマを実践的に進めて行く。また、学生が落ち着いた時点(安全性)で、徒歩で行ける博多湾にて野外実習をする。毎回の基本的な流れは、テーマ内容理解のための説明・講義が1/3。作業(全体・グループ単位)を2/3の時間配分とする。一方、「水生生物研究」と同様に実施メモの習慣を付けさせたいため、ノートチェックは基本的に毎回実施する(講師の仕事)。</p> <p>※実務経験者 国土交通省九州地方整備局 遠賀川河川事務所 河川環境保全モニター</p>							
【到達目標】							
<p>①魚類検索図鑑を7割程度使いこなすことができる ②授業後の片付けの重要性が分かり、作業工程を逆算して考える事ができる。 ③実験や作業で使う道具は、必要に応じて自分で考案・制作する意識を持つ事ができる。 ④目的・対象魚類に適合した標本作りが6割程度説明できる</p>							

授業計画・内容	
1回目	①魚類検索スケッチ中級 (プロポーシオンと部位計測)
2回目	①魚類検索スケッチ上級 (細部スケッチ・計数データ記入)
3回目	④透明骨格標本 その1(理論・行程・薬品解説)
4回目	③竹ピンセットの作成 (金属ピンセットとの用途差異)
5回目	血液採取方法と希釈透明化 (1年次「魚類研究・透明な魚」の検証として)
6回目	④魚類の重要な骨検出と意味・解説 (耳石・肩甲骨・烏口骨)
7回目	■中間評価 + ここまでの補足作業(検索スケッチ等)
8回目	②③博多湾・博多埠頭での釣り実習 (イベント企画者の立場 + 現場ロープワーク)
9回目	④魚類剥製 (概説・作業)
10回目	水産食品加工 (保存食品の条件⇒水分・塩分・油分・pH・脱酸素)
11回目	河川地点採集サンプル総合分類 1 河川中上流 (魚類生息環境・出現種一覧表)
12回目	河川地点採集サンプル総合分類 2 河口域 (魚類生息環境・出現種一覧表)
13回目	大型魚類胃内容分析
14回目	■期末評価 + ここまでの補足作業
15回目	学生希望テーマ授業
準備学習 時間外学習	特になし
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ●中間評価 25% ●期末評価 25% ●ノート点 50%
【使用教科書・教材・参考書】 □	
学生が購入したり、常用する参考書はなし。講師が授業毎にレジュメおよび資料を配布する。	

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	魚類学実験 (Laboratory of Fishes)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	淵上 信好
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜日4・5時限

【授業の学習内容】

後期は、作業のウエイトを大きくする。その回の作業テーマの意味と基本作業を講師がデモし、グループおよび個人単位で実施。同じ場所での別作業のため、時間設定、道具の使い回し、人の導線など「段取り力」が必要となってくる。また、正しい失敗を繰り返しながら最後まで仕上げる事を目標とする。魚類から派生する「モノづくり」。将来、職場での魚介類系のイベント等における発想・企画・経費計算などに役立てたい。研修・早期就職で授業参加困難な学生でも、計画を立てて作品提出へと指導して行く。

※実務経験者

国土交通省九州地方整備局 遠賀川河川事務所 河川環境保全モニター

【到達目標】

- ①魚類から派生する作業について「知っている」ではなく「やったコトがある」で話すことができる
- ②実験等において「段取り力」が一定のレベルに達している
- ③様々な製品を見て「用」「強」「美」の3要素で評価できるようになる
- ④この授業を通して様々な視点から魚類を語る事ができる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	魚類麻酔薬・魚病薬の研究（市販薬品の検討と個人用自作）
2回目	果物アート（雨プログラムの組み方）
3回目	アクリル加工（透明骨格標本・剥製ケースおよび小型水槽）
4回目	透明骨格標本 2（継続作業のまとめとして）
5回目	塗装（水性・油性・漆）
6回目	秋の釣り大会 in 博多埠頭（学生企画）
7回目	発泡スチロール加工（多用途）
8回目	魚類注連縄づくり（藁素材・伝統文化）
9回目	竹素材の加工（ピンセット以外の用途として）
10回目	魚類デザインのパンケーキ（食育イベントのバリエーションとして）
11回目	燻製（キャンプメニュー ～ 世界共通保存食品）
12回目	UVレジン（義眼・魚類部位を封入したアクセサリ）
13回目	■作品提出 追い込み（間に合いそうにない学生のみまで協力して作成）
14回目	■作品提出 受付締め切り（早期就職の学生のみまで協力して作成）
15回目	学校備品の修理と教室の大掃除（感謝をこめて楽しそうに掃除をする）

準備学習
時間外学
習

特になし

評価方法

- 作品提出 50%
- ノート点 50%

【使用教科書・教材・参考書】 □

学生が購入したり、常用する参考書はなし。講師が授業毎にレジュメおよび資料を配布する。

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	観賞魚研究Ⅱ (Ornamental Fish Ⅱ)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	林 峻秀
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日3時限

【授業の学習内容】

実際に海水水槽の管理をグループで行い、管理に付随してくる事柄に関して演習形式で指導を行う。

※実務経験者

福岡ECO講師 指導歴3年(2016.03.16～) 前職/株式会社 名東水園

【到達目標】

海水水槽オーバーフローシステム水槽の取り扱い及び管理法を習得する。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	各水槽システム取り扱い説明・人工海水の作り方
2回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
3回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
4回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
5回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
6回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
7回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
8回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
9回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
10回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
11回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
12回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
13回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
14回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
15回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
準備学習 時間外学習	生物の飼育は日々観察することが重要です。学校内全ての水槽を毎日必ず生体の状態及び飼育設備をよく観察し、異常がある場合は速やかに対処してください。水生生物の飼育法は様々ですので、様々な飼育法を理解できるように平日頃実習室全ての水槽設備をよく観察し理解できるようにしてください。できる限りショップ・水族館の見学を行い、それぞれの飼育法の違い、生体の状態の違いをよく観察してください。
評価方法	■授業内評価 100%
【使用教科書・教材・参考書】 □	
なし	

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	観賞魚研究Ⅱ (Ornamental FishⅡ)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	林 峻秀
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜日3時限

【授業の学習内容】

実際に海水水槽の管理をグループで行い、管理に付随してくる事柄に関して演習形式で指導を行う。

※実務経験者

福岡ECO講師 指導歴3年(2016.03.16～) 前職/株式会社 名東水園

【到達目標】

グループ作業においてコミュニケーション能力を身に付ける。各水槽システムの作業内容を把握し、作業効率を考慮した行動能力を身に付ける。海水水生生物各種其々の飼育法の違いを理解習得する。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
2回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
3回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
4回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
5回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
6回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
7回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
8回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
9回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
10回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
11回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
12回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
13回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
14回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
15回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウエット濾過水槽1④集中ウエット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明

準備学習
時間外学習

生物の飼育は日々観察することが重要です。学校内全ての水槽を毎日必ず生体の状態及び飼育設備をよく観察し、異常がある場合は速やかに対処してください。水生生物の飼育法は様々ですので、様々な飼育法を理解できるように平日頃実習室全ての水槽設備をよく観察し理解できるようにしてください。できる限りショップ・水族館の見学を行い、それぞれの飼育法の違い、生体の状態の違いをよく観察してください。

評価方法

■授業内評価 100%

【使用教科書・教材・参考書】 □

なし

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	アクアビジネス (Aquarium Fish Business)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	細川 信行
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜日3・4時限

【授業の学習内容】

観賞魚業界の歴史、流通構造、業種 店舗形態、営業販売手法について学び、業界の基本的知識を幅広く学習する。業界に限らず必要となる各種ビジネス書類の作成方法や商品の値付け等についても学習する。

※実務経験者

aqua shop D-aquarium 代表

【到達目標】

観賞魚業界の基本事項や業種を理解しながら、社会人としての基本を身に着ける。

(具体的な目標)

- ①観賞魚業界全体を把握し、各業種の特徴を知る。
- ②基本的な利益計算などビジネスにおいて必要となる知識を習得する

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	講義内容説明・評価方法説明・業界の歴史
2回目	製造業について・現状と特色・為替の影響
3回目	卸売業について/卸売業の役割
4回目	小売店について/専門店の長所・短所
5回目	小売店について/専門店～通販長所・短所
6回目	出張メンテナンス業について/長所と短所
7回目	前半の復習
8回目	生体。商品の流通経路
9回目	店舗の運営について/前準備・販売水槽の管理
10回目	写真スライド解説・店舗他
11回目	商品・生体の季節変動性、商品のは注業務、常備数・発注の考え方、値付けについて
12回目	値付け、損益分岐点について、固定費・変動費、収益を出すためには
13回目	期末評価及び振り返り①
14回目	振り返り②
15回目	実習室レイアウト水槽撤去

準備学習
時間外学習

評価方法

期末評価80% 授業内評価20%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	魚病学 (Fish Pathology)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	高山清次
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜日2時限

【授業の学習内容】

ウイルス性・細菌性・寄生虫病など魚類に多くみられる疾病の予防、治療方法を理解することを目的とする。

※実務経験者

麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了/獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 学校長を務める。

【到達目標】

ウイルス性・細菌性・寄生虫病などによる魚病の症状の予防、治療方法を実践することができる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	魚病学の概要を理解できる。
2回目	疾病の発生原因を理解できる。
3回目	疾病を予防する上で必要なことを理解できる。
4回目	水温と魚類の関係について、理解できる。
5回目	急激な温度変化による魚類への影響について理解できる。
6回目	観賞魚の皮膚の構造について理解できる。
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	観賞魚の酸素必要量・酸素供給量について理解できる。
9回目	水槽内での窒素循環・硝化細菌の定着について理解できる。
10回目	pHと水換えの関係性を理解できる。
11回目	観賞魚の疾病の分類について理解できる。
12回目	観賞魚用医薬品の成分について理解できる。
13回目	観賞魚用医薬品による治療方法について理解できる。
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	まとめ

準備学習 時間外学習	学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。
---------------	-----------------------------------

評価方法	定期試験:80%(中間30%、期末50%<期末試験は中間範囲も含むため割合が高い>) 授業態度と参加度:20%
------	---

【使用教科書・教材・参考書】 □

学校図書やインターネットを利用する。

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	動物栄養学概論 (Introduction of Nutrition for Animals)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	高山清次
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 木曜日2時限

【授業の学習内容】

動物の食餌に必要な栄養素とその働きについて学ぶとともに、飼料の種類・給餌方法などを理解することを目的とする。

※実務経験者

麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了/獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 学校長を務める。

【到達目標】

動物の食餌に必要な栄養素とその働きについて理解を深め、飼料の種類・給餌方法を適切に判断し、実践することを目的とする。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	栄養と栄養素の説明ができる。
2回目	エネルギー栄養素の説明ができる。
3回目	脂肪・タンパク質の働きが理解できる。
4回目	ビタミンの働きが説明できる。
5回目	ビタミンA・D(脂溶性ビタミン)の説明ができる。
6回目	ビタミンB・C群(水溶性ビタミン)、ミネラルの説明ができる。
7回目	ペットフードの歴史が説明できる。
8回目	中間評価及び振り返り
9回目	ペットフードの種類を説明できる。
10回目	ペットフードの目的別分類が実践できる。
11回目	家庭用食材からのペットフードの作り方を理解できる。
12回目	動物にとっての魚肉、乳製品、玉ねぎの害について理解できる。
13回目	動物にとっての玉ねぎ中毒・チョコレート中毒について理解できる。
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	まとめ

準備学習 時間外学習	学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。
---------------	-----------------------------------

評価方法	定期試験:80%(中間30%、期末50%＜期末試験は中間範囲も含むため割合が高い＞) 授業態度と参加度:20%
------	---

【使用教科書・教材・参考書】 □

学校図書やインターネット等を利用する。

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	両生・爬虫類研究 (Amphibians and Reptiles)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	福澤 正将
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜日3時限

【授業の学習内容】

両生類および爬虫類を飼育管理していく上で、必要な知識・技術を学ぶ。

※実務経験者

爬虫類専門店『ライフフォース』代表。店舗と併せて、イベントプロダクション・出張メンテナンスなども行う。

【到達目標】

一般種として紹介される生体の、飼育管理が行えるようになる。また、その説明が出来るようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	オリエンテーション
2回目	爬虫類・両生類、体の仕組み
3回目	規制法律
4回目	トカゲとは 生体他
5回目	トカゲの飼育法
6回目	病気・ケガの対処法
7回目	実習室
8回目	ヤモリとは
9回目	ヤモリの飼育法
10回目	病気・ケガの対処法
11回目	実習室
12回目	折り返し・評価試験対策
13回目	前期評価及び前期振り返り①
14回目	前期振り返り②
15回目	昆虫・奇虫の飼育法

準備学習
時間外学習

評価方法

■ 記述試験 100%

【使用教科書・教材・参考書】 □

- ・飼育設備器材(水槽・ライトなど)
- ・配布資料

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	両生・爬虫類研究 (Amphibians and Reptiles)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	福澤 正将
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜日3時限

【授業の学習内容】

両生類および爬虫類を飼育管理していく上で、必要な知識・技術を学ぶ。

※実務経験者

爬虫類専門店『ライフフォース』代表。店舗と併せて、イベントプロダクション・出張メンテナンスなども行う。

【到達目標】

一般種として紹介される生体の、飼育管理が行えるようになる。また、その説明が出来るようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	両生類とは 生体他
2回目	両生類の飼育法
3回目	病気・ケガの対処法
4回目	実習室
5回目	へびとは 生体他
6回目	へびの飼育法
7回目	病気・ケガの対処法
8回目	実習室
9回目	カメとは 生体他
10回目	カメの飼育法
11回目	病気・ケガの対処法
12回目	実習室
13回目	折り返し・評価試験対策
14回目	後期評価及び後期振り返り①
15回目	後期振り返り②

準備学習
時間外学習

評価方法

■ 記述試験 100%

【使用教科書・教材・参考書】 □

- ・飼育設備器材(水槽・ライトなど)
- ・配布資料

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	海洋生態 (Marine Ecology)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	永濱藍
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日2時限

【授業の学習内容】

生態学の基礎を習得するとともに、生物間の相互作用について理解を深める。特に、海洋の物理的・化学的特性を知り、海洋環境と生物の関係、海洋動物における個体間の相互関係などを学ぶ。

※実務経験者

九州大学大学院 システム生命科学府 一貫性博士課程4年生 生態科学研究所所属

【到達目標】

生態学の基礎を習得する。また、海洋環境・生物を科学的に説明ができるようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	生態学/海と陸の違い/生き物の分類
2回目	高校生物の復習/地球と生命の歴史
3回目	深さと環境の変化
4回目	海流・潮汐・エルニーニョ現象
5回目	計算の復習/濃度・比重・希釈・用量・比例式
6回目	5コマ振り返り・復習
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	興味深い海の生き物
9回目	海の植物(海草・海藻・マングローブ)
10回目	サンゴ礁(サンゴの種類・生育条件・形成・一生・共生生物)
11回目	深海生物(水圧・日周鉛直移動・特殊な生態系・深海生物の保護)
12回目	計算の復習(確率)
13回目	12コマ振り返り・復習
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	個体推定法

準備学習
時間外学習

なし

評価方法

■記述試験 100% □

【使用教科書・教材・参考書】 □

なし

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	海洋生態 (Marine Ecology)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	永濱藍
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜日2時限

【授業の学習内容】

生態学の基礎を習得するとともに、生物間の相互作用について理解を深める。特に、海洋の物理的・化学的特性を知り、海洋環境と生物の関係、海洋動物における個体間の相互関係などを学ぶ。

※実務経験者

九州大学大学院 システム生命科学府 一貫性博士課程4年生 生態科学研究所所属

【到達目標】

生態学の基礎を習得する。また、海洋環境・生物を科学的に説明ができるようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	オリエンテーション・進化・突然変異・自然選択
2回目	食物連鎖・バイオマス・個体数の変動
3回目	植物プランクトン・動物プランクトン
4回目	ネクトンの種類・絶滅した動物
5回目	ベントスの種類・キーストーン種
6回目	中間評価及び振り返り
7回目	適応動・コスト・ベネフィット・トレードオフ・利他的行動
8回目	相互作用①同種内の関わり合い(競争・繁殖)
9回目	相互作用②異なる種間の関わり合い(種間競争・捕食者・被食者・共生)
10回目	計算の復習:統計・グラフの見方・騙されない方法
11回目	7W~10W復習
12回目	海と人間の関係・環境問題
13回目	後期評価及び後期振り返り①
14回目	後期振り返り②
15回目	1年間の振り返り

準備学習 時間外学習	なし
---------------	----

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 記述試験 100% <input type="checkbox"/>
------	---

【使用教科書・教材・参考書】

なし

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	スイムトレーニング (Swim Training)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	石井 司
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜日1時限

【授業の学習内容】

泳ぐということに対する基礎知識(浮き身、呼吸法、抗力、揚力、推進力)を理解したうえで実践できる技術を学ぶ。また、泳法に関しては全体的な泳ぎの練習ではなく、細部まで分解して泳ぎの仕組みを理解し反復練習した上で、コンビネーションへとつなげていく。基本姿勢、ストローク、キック、呼吸、コンビネーションと言う流れで1つの泳法をマスターしていく。早い泳ぎではなくフォーミングに重点を置き、ゆっくり長く泳げる泳力を身に付ける。

※実務経験者

スポーツクラブNAS 北天神 支配人、水泳指導歴20年

【到達目標】

クロール、平泳ぎを正しいフォームにて25m完泳を一つの目標とする。
泳ぎがあまり得意でない学生は無理をせず、自分のペースで2泳法の修得を目指す。
泳ぎが比較的得意な学生は今一度自分のフォームを再チェックし、よりきれいで楽なフォームで泳げるようになることを目指す。
クラス内での泳力による練習項目の差は基本ないようなプログラム編成とする。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	基礎の復習及び、能力に応じてのグループ分け。クロール、平泳ぎの見極め。
2回目	泳法①『クロール』基礎Ⅰ
3回目	泳法①『クロール』基礎Ⅱ
4回目	泳法①『クロール』基礎Ⅲ
5回目	泳法①『クロール』泳ぎ込み
6回目	クロール泳法評価
7回目	泳法②『平泳ぎ』基礎Ⅰ
8回目	泳法②『平泳ぎ』基礎Ⅱ
9回目	泳法②『平泳ぎ』基礎Ⅲ
10回目	泳法②『平泳ぎ』泳ぎ込み
11回目	平泳ぎ泳法評価
12回目	『クロール』『平泳ぎ』復習①
13回目	『クロール』『平泳ぎ』復習②
14回目	評価及び振り返り①
15回目	評価及び振り返り②
準備学習 時間外学習	準備学習、時間外学習は必要なし。 毎週休まずに出席できるよう体調管理の徹底をすること。
評価方法	①クロール25mの実技テスト(フォーム、到達距離にて評価) 40% ②平泳ぎ25mの実技テスト(フォーム、到達距離にて評価) 40% ③日々の授業の取り組み方 5% ④授業参加率 15%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	船舶免許対策講座(2級・特殊) (Boat Operator II and Personal Water Craft Operator National Examination Course)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	ボート免許センター
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日4時限

【授業の学習内容】

広い水域での生物探査・観察ができるようになるために必要な、小型船舶に対する知識を学ぶ。
小型船舶操縦士2級・特殊(水上オートバイ)免許取得を目指す。

※実務経験者

株式会社ボート免許センター。(設立2006年3月24日)

事業内容/一級・二級・二級第一号限定・特殊小型船舶教習所(九小教第5号)・小型船舶操縦免許証更新・失効再交付講習機関(操更講第17号・操失講第17号)損害保険代理業務

【到達目標】

小型船舶操縦士2級・特殊(水上オートバイ)免許取得。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	オリエンテーション/取得免許に関して
2回目	学科教本P13～P36 心得および遵守事項(水上交通の特性、小型船舶の船長の心得)
3回目	学科教本 P37～P52 心得および遵守事項(小型船舶の船長の遵守事項)
4回目	学科教本 P53～P61 交通の方法(海上衝突予防法/航法)
5回目	学科教本 P62～P73 交通の方法(海上衝突予防法/灯火・形象物・信号、港則法)
6回目	学科教本P74～P87 交通の方法(海上交通安全法、湖川・特定水域での交通ルール) 運航(操縦/小型船舶の種類)
7回目	学科教本 P88～P107 運航(操縦/操縦の基本/出入港と停泊/狭い水道や河川の航行/狭視界時の航行/曳航)
8回目	学科教本 P108～P124 運航(航海の基礎)
9回目	学科教本 P125～P139 運航(船体・設備・装備品、機関の取り扱い/エンジンの基礎知識)
10回目	学科教本 P140～P155 運航(機関の取り扱い/エンジンの主な系統/発効前の点検/基本操作/点検・整備)
11回目	学科教本 P156～P171 運航(気象・海象、荒天時の操縦、事故対策)
12回目	補習・練習問題
13回目	免許試験①
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	免許試験②

準備学習
時間外学習

評価方法

記述試験 100%

【使用教科書・教材・参考書】

学科教本

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	船舶免許対策講座(1級) (Boat Operator I National Examination Course)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	ボート免許センター
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻					曜日・時限	火曜日3時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>広い水域での生物探査・観察ができるようになるために必要な、小型船舶に対する知識を学ぶ。 小型船舶操縦士1級免許取得を目指す。</p> <p>※実務経験者 株式会社ボート免許センター。(設立2006年3月24日) 事業内容/一級・二級・二級第一号限定・特殊小型船舶教習所(九小教第5号)・小型船舶操縦免許証更新・失効再交付講習機関(操更講第17号・操失講第17号)損害保険代理業務</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>小型船舶操縦士1級免許取得。</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	学科教本P7～P49 上級運航Ⅰ(航海計画・救命設備、通信設備、気象・海象/気象の諸要素)
2回目	学科教本P50～P53・P57～P71上級運航Ⅰ(気象、海象/気象予測/潮汐・海流－海流、荒天航法・海難事例)
3回目	学科教本 P73～P89 上級運航Ⅱ(機関の保守整備/エンジンの基本/主な系統,保守,整備－燃料油系統)
4回目	学科教本P89～P97上級運航Ⅱ(機関の保守整備/主な系統,保守,整備－潤滑油・冷却水・空気・電気系統)
5回目	学科教本P98～P111上級運航Ⅱ(機関の保守整備/主な系統,保守,整備－動力の伝達・操舵系統、機関故障時の対処)
6回目	海図(基礎・航海計画)
7回目	海図(航海計画・船位の測定)
8回目	学科教本P54～P56上級運航Ⅰ(気象・海象/潮汐・潮流－潮汐と海流) 海図(実航進路・速力)
9回目	海図(実航進路・速力)
10回目	補習・練習問題
11回目	補習・練習問題
12回目	補習・練習問題
13回目	期末評価及び振り返り
14回目	免許試験
15回目	免許試験
準備学習 時間外学習	なし
評価方法	記述試験 100% <input type="checkbox"/>
<p>【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/></p> <p>学科教本</p>	

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	ダイビング演習 (Scuba Diving)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高濱 香
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日2時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>潜水計画から海況判断、トラブル回避など、ダイビングを安全に楽しむために必要な知識を学科講習で身につけ、海でスキルを身につける。</p> <p>※実務経験者 PADIコースディレクターであり、ダイビングショップ『DIVE ESUCH』代表</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>PADIオープン・ウォーター・ダイバーカード取得</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション／アンケート及び、参加前書類作成
2回目	オープン・ウォーター テキスト第1章
3回目	オープン・ウォーター テキスト第2・第3章
4回目	オープン・ウォーター テキスト第4・第5章
5回目	オープン・ウォーター 模擬テスト
6回目	オープン・ウォーター ライセンス学科試験
7回目	オープン・ウォーター 器材紹介・セッティング紹介
8回目	オープン・ウォーター ダイビング演習①ライセンス取得講習(終日)
9回目	オープン・ウォーター ダイビング演習②ライセンス取得講習(終日)
10回目	オープン・ウォーター ダイビング演習③ライセンス取得講習(終日)
11回目	オープン・ウォーター ダイビング演習④ライセンス取得講習(終日)
12回目	オープン・ウォーター ダイビング演習⑤ライセンス取得講習(終日)
13回目	オープン・ウォーター ダイビング演習⑥ライセンス取得講習(終日)
14回目	オープン・ウォーター ダイビング演習⑦ライセンス取得講習(終日)
15回目	オープン・ウォーター ダイビング演習⑧ライセンス取得講習(終日)
準備学習 時間外学習	水泳200mが泳げる体力
評価方法	<p>■学校評価基準 筆記試験 70% スキル評価 30%</p> <p>■ライセンス取得基準 筆記試験 75%以上(ライセンス学科 取得基準) スキル評価 100%(ライセンス実技 取得基準)</p>
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>	
PADIオープンウォーターテキスト	

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	潜水士対策講座 (Preparation class for Diving Examination)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	高濱 香
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜日2時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>潜水計画から海況判断、トラブル回避など、ダイビングを安全に楽しむために必要な知識を学科講習で身につけ、海でスキルを身につける。</p> <p>※実務経験者 PADIコースディレクターであり、ダイビングショップ『DIVE ESUCH』代表</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>国家試験「潜水士」取得</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	潜水士概要・全体の説明
2回目	潜水業務
3回目	潜水業務 過去問題①
4回目	潜水業務 過去問題②
5回目	送気、潜降及び浮上
6回目	送気、潜降及び浮上 過去問題
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	高気圧障害
9回目	高気圧障害 過去問題①
10回目	高気圧障害 過去問題②
11回目	関係法令
12回目	関係法令 過去問題①
13回目	関係法令 過去問題②
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	潜水士 過去問題
準備学習 時間外学習	使われている用語や仕組みが難しいので、復習が必要。
評価方法	筆記試験 100%
<p>【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/></p> <p>潜水士テキスト</p>	

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	ライフセービング (Life Saving)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	高濱 香
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日4時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>心停止など生命にかかわる緊急時のケアを大人・小児・乳児の人数やAEDを使って、スキルを身につけたり、即座に生命にかかわらないケガや病気の人に包帯の巻き方や、脈の測り方など実習する。</p> <p>※実務経験者 PADIコースディレクターであり、ダイビングショップ『DIVE ESUCH』代表</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>BLS(CPR+AED)資格取得</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション／アンケート及び、ライフセービング資格説明
2回目	一次ケア 知識の予習
3回目	一次ケア DVDを見て、スキルの確認
4回目	一次ケア 現場の評価・バリアの使い方
5回目	一次ケア 回復体位
6回目	一次ケア CPR
7回目	一次ケア 中間評価
8回目	一次ケア DVDを見て、スキルの確認
9回目	一次ケア CPRとレスキュー呼吸
10回目	一次ケア AEDの使い方①
11回目	一次ケア AEDの使い方②
12回目	二次ケア 知識の予習
13回目	二次ケア 病気の対応
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	二次ケア 包帯の巻き方・三角巾の使い方
準備学習 時間外学習	緊急事態の時に、すばやく対応できる様に、スキルの復習が必要。
評価方法	筆記試験 80% 実技評価 20%
【使用教科書・教材・参考書】 □	
PADI EFRテキスト・EFR DVD	

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	ライフセービング (Life Saving)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	高濱 香
	専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】

心停止など生命にかかわる緊急時のケアを大人・小児・乳児の人形やAEDを使って、スキルを身につけたり、即座に生命にかかわらないケガや病気の人に包帯の巻き方や、脈の測り方など実習する。

※実務経験者

PADIコースディレクターであり、ダイビングショップ『DIVE ESUCH』代表

【到達目標】

BLS(CPR+AED)資格取得

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	子供・乳児の救急法(大人との違い)
2回目	子供・乳児 一次ケア 知識の予習
3回目	子供・乳児 一次ケア DVDを見て、スキルの確認
4回目	子供・乳児 一次ケア 現場の評価・バリアの使い方
5回目	子供・乳児 一次ケア 回復体位
6回目	子供・乳児 一次ケア CPR
7回目	子供・乳児 一次ケア 中間評価
8回目	子供・乳児 一次ケア CPRとレスキュー呼吸
9回目	子供・乳児 一次ケア 気道閉塞
10回目	ロープワーク ツーハーフ・ヒッチ シートベント パウライン チェーンノット
11回目	ロープワーク パウライン
12回目	大人・子供・乳児の一次ケア 実践演習 評価①
13回目	大人・子供・乳児の一次ケア 実践演習 評価②
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	一次ケア・二次ケア DVD鑑賞

準備学習
時間外学
習

緊急事態の時に、すばやく対応できる様に、スキルの復習が必要。

評価方法

筆記試験 80%
実技評価 20%

【使用教科書・教材・参考書】 □

PADI EFRテキスト・EFR DVD

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	コンピュータ演習 (Practice of Computer)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	千葉恵一・井口恵美里・芳村周一
専攻名	各専攻1年生	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	月3・4・5 金2 木3 金3・4・5 火1・2 水3・4 上記のいずれか

【授業の学習内容】

業種を問わず必要とされる「コンピュータの操作」を勉強していく
 前期は「Word」を使い「レポート」や「写真を貼った文章」が作れるように勉強していく。また、安全にインターネットを利用できるように「ITリテラシー」も勉強する
 前期・後期をまたぎ「PowerPoint」でスライド作成の勉強をする。
 基本的な授業の進め方は、今日勉強する事の説明→教科書の説明→プロジェクターで実演→PCで操作とする。

※実務経験者

滋慶学園各校でコンピュータ授業講師(20年)

【到達目標】

教科書を読みながら、書かれている操作が出来るようになる
 Wordを使ってレポート作成が出来るようになる
 安全にインターネットを利用できるようになる
 「We are ECO」のスライドが作れるようになる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	USBメモリー紛失対策・USBメモリーの使い方等／ITリテラシー①
2回目	ITリテラシー②
3回目	Wordの基本操作(主に文章入力)
4回目	Wordの基本操作(主に文章編集)
5回目	Wordの基本操作(主に写真を貼り付けた文章の作成)
6回目	Wordの基本操作(主に図形を描画して色・線種を変更する)
7回目	Wordの基本操作(課題提出)
8回目	Word中級編(主に表を挿入し読みやすい表に整形する)
9回目	Word中級編(文章作成の役に立つ機能を勉強する)
10回目	Word中級編(図+文字で他人の関心を引く文章を作成する)
11回目	Wordの応用(計算式を入力してみる)
12回目	Wordの応用(レポート作成に便利な機能を勉強する)
13回目	Wordの応用(繰り返し利用する文章を簡単に作る方法を勉強する)
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	PowerPoint基礎(文字だけもの・画像を入れたもの・グラフ等を入れたもの)

準備学習
時間外学習

評価方法

授業内評価: 60%
 期末テスト: 40% ※提出作品(データで提出)

【使用教科書・教材・参考書】 □

COMPUTER BASIC Word
 COMPUTER BASIC Excel

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	コンピュータ演習 (Practice of Computer)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	千葉恵一・井口恵美里・芳村周一
専攻名	各専攻1年生	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 月3・4・5 金2 木3 金3・4・5 火1・2 水3・4 上記のいずれか

【授業の学習内容】

業種を問わず必要とされる「コンピュータの操作」を勉強していく
 後期は「Excel」を使い「計算式が入った表」や「読みやすいグラフの作り方」を勉強していく
 Excelへの苦手意識を少しでも減らす講義にする
 基本的な授業の進め方は、今日勉強する事の説明→教科書の説明→プロジェクターで実演→PCで操作とする。

※実務経験者

滋慶学園各校でコンピュータ授業講師(20年)

【到達目標】

Excelへの苦手意識を少しでも減らす
 教科書を読みながら、書かれている操作が出来るようになる
 Excelを使って計算式が入った表やグラフが作成できるようになる
 「We are ECO」のスライドを作成する

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	PowerPoint基礎(印刷、スライドマスター、切り替え効果、アニメーション)
2回目	PowerPoint課題提出
3回目	Excelの基礎①
4回目	Excelの基礎②
5回目	Excelの基礎③
6回目	Excelの基礎④
7回目	Excel中級編①
8回目	Excel中級編②
9回目	Excel中級編③
10回目	Excel中級編④
11回目	Excelの応用①
12回目	Excelの応用②
13回目	Excelの応用③
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	まとめ

準備学習
時間外学習

評価方法

授業内評価: 60%
 期末テスト: 40% ※提出作品 (PowerPoint作品提出・Excel作品提出)

【使用教科書・教材・参考書】 □

COMPUTER BASIC Word
 COMPUTER BASIC Excel

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	英会話 (English Conversation)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	ジェイ・バラリーノor スティーブン・ムラシゲ
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

外国の方と接する際、恥ずかしがらずに挨拶や基本的な事を英語で話し、更に自分から話しかけることができるよう学習する。
ただ座って聞くだけではなく、アクティビティに参加しながら体感的に学んでいく。

※実務経験者

ジェイ・バラリーノ:2001年より日本にて英会話講師の経験あり
スティーブン・ムラシゲ:2000年より日本にて教授をしている。小学、中学、高等学校等で英会話の教授経験あり

【到達目標】

- ・日常生活の様々な場面で使える頻度の高い英語の文法を会話に当てはめて使えるようになること。
- ・授業でのコミュニケーションな会話の実践を通して、相手の会話をすぐに理解し、積極的な対応ができる技術を身につけること(自信を持って尚且つ丁寧に相手の話を聞き、返答ができるようになること)

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	L. 1	イントロダクション、プレテスト、初対面のあいさつ～お別れまでの会話をする。
2回目	L. 3	パーソナルインフォメーションに関する一般的な質問をする。
3回目	L. 6	好き・嫌い等の好みについての会話をする。
4回目	L. 8	意見を尋ねる/意見を述べる。
5回目	L. 9 & 10	家族や性格について話す。
6回目	L. 11	人を褒める&褒められた際の会話表現 (衣服など)
7回目	L. 7, 13	時間について表現する。日々の習慣について話す。
8回目	L. 14	補足質問をする。
9回目	L. 19 & 20	道案内をする・場所を尋ねる。
10回目	L. 21 & 23	数やお金の数え方・価格や頻度についての質問や受け答えをする。
11回目	L. 28	料理の味や材料について&レストランでのオーダー方法を学ぶ。
12回目	L. 29 & 30	過去の出来事について話す&質問する。
13回目	L. 32	未来の予定について話す。
14回目	前期評価及び振り返り	
15回目	試験返却、解説、ポストテスト	

準備学習 時間外学習	事前に教科書を読んでおきましょう。
---------------	-------------------

評価方法	学期末に筆記試験あり(定期試験100%)
------	----------------------

【使用教科書・教材・参考書】

Speak Now1

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	キャリアプランニング I (Carrier planning- I)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	山本 大樹
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 水曜日 2時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティを理解し、実践できるようになる。進級時春休みに照準を合わせ、インターンシップに臨める姿勢を身に付ける為の、気づきを得るためのワークを用いた学習を行う。各種学校イベントを通し、クラスマネジメントを理解する。また、社会集団の一員として自身の立場を確立する。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>■社会人としても求められる、社会性・人間性を身に付けることが出来ている。 ■クラス集団の中で協調性を持ち</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業オリエンテーション①: 2年間のキャリアプランニングを理解する
2回目	授業オリエンテーション②: 社会性・専門性を理解する
3回目	イベント運営①: 学園祭イベント内容の話し合いを通し、ホスピタリティマインド・ビジネスマインドを学ぶ
4回目	イベント運営②: 学園祭イベント内容の話し合いを通し、ホスピタリティマインド・ビジネスマインドを学ぶ
5回目	イベント運営③: 学園祭イベント内容の話し合いを通し、ホスピタリティマインド・ビジネスマインドを学ぶ
6回目	イベント運営④: 学園祭イベント内容の話し合いを通し、ホスピタリティマインド・ビジネスマインドを学ぶ
7回目	イベント運営⑤: 学園祭イベント内容の話し合いを通し、ホスピタリティマインド・ビジネスマインドを学ぶ
8回目	業界研究①: 水族館宿泊研修リエントリー/施設理解
9回目	業界研究②: 水族館宿泊研修リエントリー/施設理解
10回目	業界研究③: 水族館宿泊研修振り返りワーク
11回目	業界研究④: 水族館宿泊研修振り返りワークでの気づきより インターンシップ評価表を用いた客観的自己評価
12回目	キャリア教育: 成功の原則
13回目	前期試験に向けて: 便覧を用い、試験規定・進級に必要な単位数等を正確に理解する
14回目	前期末評価及び振り返り: 前期に取り組んだ内容の習熟度を振り返る
15回目	後期に向けて: 後期授業について理解する
準備学習 時間外学 習	
評価方法	・出席状況(100%) ※1回欠席ごとに5点減点
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>	

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	キャリアプランニング I (Carrier planning- I)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	山本 大樹
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 木曜日 4時限
<p>【授業の学習内容】 キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティを理解し、実践できるようになる。進級時春休みに照準を合わせ、インターンシップに臨める姿勢を身に付ける為の、気付きを得るためのワークを用いた学習を行う。各種学校イベントを通し、クラスマネジメントを理解する。また、社会集団の一員として自身の立場を確立する。</p>							
<p>【到達目標】 ■社会人としても求められる、社会性・人間性を身に付けることが出来ている。 ■クラス集団の中で協調性を持ち</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	後期オリエンテーション： 前期振り返り及び、後期目標設定 自己理解
2回目	一般教養①： 社会人基礎力 一般常識・時事問題
3回目	一般教養②： 社会人基礎力 一般常識・時事問題
4回目	キャリア教育①： 履歴書作成のポイント理解 志望動機/専門分野で学んだこと
5回目	キャリア教育②： 履歴書作成のポイント理解 自己PR/関心事他
6回目	キャリア教育③： 合同企業説明会を通じて、学び取るべきことの確認
7回目	キャリア教育④： 合同企業説明会振り返り
8回目	進級課題制作①： テーマ設定、内容決め
9回目	進級課題制作②： 発表データ(パワーポイント)作成
10回目	インターンシップに向けて： キャリアセンター登録票をもとに、希望進路を考える
11回目	進級課題発表①： 前半グループ
12回目	進級課題発表②： 後半グループ
13回目	イベント運営①： We are ECO 進級制作展準備
14回目	イベント運営②： We are ECO 進級制作展準備
15回目	インターンシップに向けて： インターンシップでの身構え・気構え・心構えの理解
準備学習 時間外学 習	
評価方法	・出席状況(100%) ※1回欠席ごとに5点減点
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>	

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	エコ教養Ⅱ (Human Study-Ⅱ)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	山本 大樹
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜日3時限
【授業の学習内容】 将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や、気構え・身構え・心構えなどを発揮出来る様になる。							
【到達目標】 ■ 業界に出て即戦力となり得る一般教養を身に付けることが出来ている ■ 自立型協働社会人として、後輩に指導が出来る							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	春季インターンシップ振り返り
2回目	2年次就職活動指針 目的・目標の明確化
3回目	イベント運営①: 学園祭イベント内容の話し合いを通し、ホスピタリティマインド・ビジネスマインドを学ぶ
4回目	イベント運営②: 学園祭イベント内容の話し合いを通し、ホスピタリティマインド・ビジネスマインドを学ぶ
5回目	イベント運営③: 学園祭イベント内容の話し合いを通し、ホスピタリティマインド・ビジネスマインドを学ぶ
6回目	イベント運営④: 学園祭イベント内容の話し合いを通し、ホスピタリティマインド・ビジネスマインドを学ぶ
7回目	合同企業説明会に向けて
8回目	合同企業説明会振り返り
9回目	関東視察研修振り返り
10回目	イベント運営⑤: スポーツフェスタイベント内容の話し合いを通じて、ホスピタリティマインドを学び、チーム力を養う
11回目	夏季休暇に向けて① インターンシップ・就職活動における姿勢
12回目	夏季休暇に向けて② インターンシップ・就職活動における姿勢
13回目	夏季休暇活動報告 インターンシップ・就職活動情報共有
14回目	イベント運営⑥: スポーツフェスタイベント内容の話し合いを通じて、ホスピタリティマインドを学び、チーム力を養う
15回目	前期振り返り 就職活動状況の確認・活動方針の調整
準備学習 時間外学習	
評価方法	・出席状況(100%) ※1回欠席ごとに5点減点
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>	

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	エコ教養Ⅱ (Human Study-Ⅱ)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	山本 大樹
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 木曜日3時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や、気構え・身構え・心構えなどを発揮出来る様になる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 業界に出て即戦力となり得る一般教養を身に付けることが出来る ■ 自立型協働社会人として、後輩に指導が出来る 							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	就職活動基本姿勢の確認
2回目	就職試験対策①
3回目	就職試験対策②
4回目	就職試験対策③
5回目	卒業課題制作① / 社会人基礎力
6回目	卒業課題制作② / 社会人基礎力
7回目	卒業課題制作③ / 社会人基礎力
8回目	卒業課題制作④ / 社会人基礎力
9回目	卒業課題発表: 評価・振り返り①
10回目	卒業課題発表: 評価・振り返り①
11回目	2019年振り返り及び、2020年度活動方針確認
12回目	評価試験対策① / 社会人基礎力
13回目	評価試験対策② / 社会人基礎力
14回目	2年間振り返り①
15回目	2年間振り返り②
準備学習 時間外学 習	
評価方法	・出席状況(100%) ※1回欠席ごとに5点減点
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>	

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	プレゼンテーション I (Presentation I)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	田代 マキ
専攻名	ドルフィントレーナー/海洋生物保護/水族館・アクアリスト	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜日・3限 水曜日・4限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>社会人としての基本【挨拶】【表情】【身だしなみ】【言葉遣い】【態度】などを身につけて、社会人基礎力の向上を目指す</p> <p>※実務経験：キャリアカウンセラー、精神保健福祉士。学校関係へのキャリア教育や企業研修を通して社会人基礎力の授業や管理職研修を行い、就職支援からリーダーシップの在り方まで職場の心と環境を整える活動を展開されている。</p> <p>【到達目標】</p> <p>グループワークを主として協調性とは何かを学ぶ。社会人の基本を自己確認、自己分析することができる</p>							

授業計画・内容	
1回目	声の心理作用について、他己紹介準備
2回目	他己紹介
3回目	非言語を学ぶ
4回目	言語ワーク① グループカとは
5回目	言語ワーク② グループカとは
6回目	非言語ワーク
7回目	基礎知識を確認する
8回目	適性検査について
9回目	グループワーク(知識編)
10回目	一般常識、グループワーク①
11回目	一般常識、グループワーク②
12回目	グループワーク(専門+一般常識テスト)
13回目	PREP法での夏休み報告
14回目	グループプレゼンテーション準備
15回目	グループプレゼンテーション発表
準備学習 時間外学習	課題により準備学習あり
評価方法	・プレゼン力:30% ・傾聴力:40% ・筆記試験:30%

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	プレゼンテーション I (Presentation I)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	田代 マキ
専攻名	ドルフィントレーナー／海洋生物保護／水族館・アクアリスト	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜日・4限 木曜日・2限

【授業の学習内容】

社会人としての基本【挨拶】【表情】【身だしなみ】【言葉遣い】【態度】などを身につけて、社会人基礎力の向上を目指す

※実務経験：キャリアカウンセラー、精神保健福祉士。学校関係へのキャリア教育や企業研修を通して社会人基礎力の授業や管理職研修を行い、就職支援からリーダーシップの在り方まで職場の心と環境を整える活動を展開されている。

【到達目標】

- ・グループの中の個の役割を果たす努力をすることができる
- ・どうすれば達成可能なのかを考え実行することができる
- ・キャリアデザインを計画することができる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	電話対応
2回目	一般常識・スピーチ練習
3回目	自己PRの作り方
4回目	自己PR・メラビアン の法則
5回目	設問への取り組み、答え方
6回目	一問一答
7回目	アサーティブワーク
8回目	自己確認の行い方
9回目	リフレーミング 口調の持つ効果
10回目	リフレーミング グループワーク
11回目	今までの学習確認、一年間の学び文章作成、文章の作り方
12回目	他己紹介
13回目	一般常識・グループワーク①
14回目	一般常識・グループワーク②
15回目	発言練習 グループディスカッションの進め方

準備学習
時間外学習

評価方法

- ・プレゼン力:30%
- ・傾聴力:40%
- ・筆記試験:30%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	プレゼンテーションⅡ (Presentation II)	必修 選択	必修・選択	年次	2	担当教員	田代 マキ
専攻名	ドルフィントレーナー/海洋生物保護、水族館・アクアリスト	授業 形態	講義・演習・実習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日3限、木曜日・4限

【授業の学習内容】

希望する就職先に求められる資質の向上

※実務経験: キャリアカウンセラー、精神保健福祉士。学校関係へのキャリア教育や企業研修を通して社会人基礎力の授業や管理職研修を行い、就職支援からリーダーシップの在り方まで職場の心と環境を整える活動を展開されている。

【到達目標】

- ・目標設定においての達成度をチェック
- ・面接における印象度アップ
- ・実習先での基礎行動を身に付ける

授業計画・内容

1回目	一年の過ごし方、自分自身の強み
2回目	価値観をさぐる、三ヶ月間の行動目標を立てる
3回目	グループワーク 課題に対してのプレゼンテーション準備
4回目	グループワーク 発表
5回目	今後の展開においての計画の立て方 今からできる小さなステップ書き出し
6回目	電話対応
7回目	電話対応テスト
8回目	問題解決法 ロジカルシンキング
9回目	適性検査
10回目	グループワーク(知識編)
11回目	面接練習
12回目	適性検査、PREP法
13回目	適性検査、PREP法、グループワーク
14回目	PREP法での夏休み報告
15回目	面接練習
準備学習 時間外学習	課題により準備学習あり
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン力: 30% ・傾聴力: 40% ・筆記試験: 30%

【使用教科書・教材・参考書】

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	プレゼンテーションⅡ (Presentation Ⅱ)	必修 選択	必修・選択	年次	2	担当教員	田代 マキ
専攻名	ドルフィントレーナー/海洋生物保護、水族館・アクアリスト	授業 形態	講義・演習・実習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜日3限、木曜日・4限

【授業の学習内容】

実習先での体験等を基本に具体的な立ち居振る舞いやコミュニケーション技法などを身につける

※実務経験: キャリアカウンセラー、精神保健福祉士。学校関係へのキャリア教育や企業研修を通して社会人基礎力の授業や管理職研修を行い、就職支援からリーダーシップの在り方まで職場の心と環境を整える活動を展開されている。

【到達目標】

- ・面接力の向上
- ・自己分析、他者評価における強みの強化、弱みの改善
- ・社会人基礎力の習得確認

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	アサーティブワーク
2回目	リフレーミングワーク
3回目	言語ワーク
4回目	一般常識 復習
5回目	グループワーク(課題をいろんな角度で考える)
6回目	一問一答(現場において学んだことを活かす力を付ける)
7回目	アイ・アクセシング・キュー(目線と心理の効果)
8回目	非言語ワーク
9回目	言語のみの表現力をつける
10回目	二年間の復習
11回目	適性検査・面接練習・自分の学習におけるの棚卸しからのキャリアデザイン
12回目	今年の抱負
13回目	コミュニケーションスキルの本実践・復習
14回目	コミュニケーションスキルの本実践・復習
15回目	コミュニケーションスキルの本実践・復習
準備学習 時間外学習	課題により事前学習あり
評価方法	・プレゼン力:30% ・傾聴力:40% ・筆記試験:30%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	コミュニケーションスキルアップ (Communication Skills)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	有限会社セレーノ・コーポレーション
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日3時限

【授業の学習内容】

社会人として通用するコミュニケーション力を年間を通じ身に付ける事で、学生生活、就職活動、卒業後の社会生活を円滑に送る事ができ、また人生をより豊かにする機会も増える。この科目ではビジネス現場で求められるコミュニケーションや対応、言葉遣いを実践しながら学ぶ。

※実務経験者

各種セミナー(話し方、傾聴、新入社員研修等)を通して人材育成事業に取り組む企業より講師を招き、授業を実施する。

【到達目標】

12月に行われるコミュニケーションスキルアップ検定の合格を目指す。
豊かな人生を送るためにコミュニケーションスキルを発揮できるようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	授業の進め方、オリエンテーション(自己紹介)、コミュニケーションの定義【P9～】
2回目	第一印象(コミュニケーションの定義、メラビアンの法則、笑顔の作り方)【P14～】 基本的対話スキル、会話のプロセス
3回目	基本的対話スキル 「話し方」【P18～】
4回目	基本的対話スキル 「聴き方」【P23～】
5回目	基本的対話スキル 「グループでの会話」【P34～】
6回目	ローブレ: 情報共有、整理・集約のゲーム①、中間試験対策
7回目	中間評価及び振り返り、自己表現スキル 「挨拶」「自己表現」【P42～】
8回目	自己表現スキル 「上手な頼み方、断り方」「自己主張」【P46～】
9回目	自己表現スキル 「報連相」「会議・ミーティング」【P60～】
10回目	自己表現スキル 「アンガーマネジメント」【P80～】
11回目	社会的スキル 「基本的な社会的スキル」【P94～】
12回目	社会的スキル 「挨拶」「敬語」「電話対応」【P96～】
13回目	前期まとめ
14回目	前期評価及び振り返り
15回目	後期の授業の進め方

準備学習 時間外学習	
評価方法	中間試験20点、期末試験80点=100点

【使用教科書・教材・参考書】 □

コミュニケーションスキルアップ検定(JESC)

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	コミュニケーションスキルアップ (Communication Skills)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	有限会社セレーノ・コーポレーション
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜日3時限

【授業の学習内容】

社会人として通用するコミュニケーション力を年間を通じ身に付ける事で、学生生活、就職活動、卒業後の社会生活を円滑に送る事ができ、また人生をより豊かにする機会も増える。この科目ではビジネス現場で求められるコミュニケーションや対応、言葉遣いを実践しながら学ぶ。

※実務経験者

各種セミナー(話し方、傾聴、新入社員研修等)を通して人材育成事業に取り組む企業より講師を招き、授業を実施する。

【到達目標】

12月に行われるコミュニケーションスキルアップ検定の合格を目指す。
豊かな人生を送るためにコミュニケーションスキルを発揮できるようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	ロープレ:ビジネス電話検定、電話対応ゲーム
2回目	社会的スキル「接客」「訪問」【P105～】
3回目	社会的スキル「謝罪」【P112～】
4回目	ロープレ:接客、訪問、名刺交換
5回目	社会的スキル「ビジネス文書」「メール」「FAX」「SNS」【P116～】
6回目	中間まとめ
7回目	中間評価及び振り返り、サービスマインドとは
8回目	DVD鑑賞 マナーの本質「相手を思いやる心」
9回目	サービスマインド「サービスとは」「サービスの心得」【P126～】
10回目	サービスマインド「サービス基本要素」【P132～】
11回目	ロープレ:ビジネスシュミレーションゲーム(敬語・電話対応・訪問・接客)
12回目	謝罪(謝る、お詫びする) マナーを意識した行動
13回目	後期まとめ
14回目	後期末評価及び振り返り、ビジネスシュミレーションワーク
15回目	1年間の総復習、ロープレ

準備学習
時間外学習

中間試験20点、期末試験80点=100点

評価方法

【使用教科書・教材・参考書】 □

コミュニケーションスキルアップ検定(JESC)

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	動画制作 (Video Production)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	田中 守
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜日3時限

【授業の学習内容】

SNS時代のWeb広告戦略概論
動画制作の座学と実践

※実務経験者

1991年より映像プロダクションを運営する。NHK関連の番組ディレクターとして従事、官公庁ビデオ制作にも携わる。現在は動画制作講師、動画制作コンサルタントとして活動する講師が授業を行う。

【到達目標】

Web広告の中でも動画を使った広告戦略を学び、実際に企画から撮影・編集を行って一人1作品を完成させる。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション 授業説明など
2回目	SNS時代の広告戦略概論 (Web広告とは?なぜ今、動画なのか?科学でも証明される動画の優位性について学ぶ)
3回目	動画制作の基礎(動画制作の手順を学ぶ。動画作品の良し悪しを決める企画と構成について学ぶ。観てもらえるもらえる動画とスルーされる動画の違い)
4回目	企画・構成ワーク(一人1テーマを決めて、企画・構成のワークを行う。自分のテーマに沿って、誰をターゲットに、何のために、何を、どのように見せるのか?を決める。)
5回目	撮影の3要素【カメラワーク】(カメラワークの3要素「構図、ポジション、アングル」の効果について学ぶ。視聴者に作者の意図を伝えるカメラワークを学ぶ。)
6回目	撮影の3要素【照明・音声】(照明の基本=3点照明「キーライト、フィルライト、バックライト」について学ぶ。音の大切さを知る。(音の性質とマイクの特性))
7回目	撮影実習 (実際に撮影をして、基本姿勢やカメラワークの練習、照明、マイクによる実践を学ぶ。)
8回目	動画編集に慣れよう (動画編集ソフトの基本操作を学ぶ。撮影した動画を使って編集の実践を行う。静止画像や動画ファイルの種類と用途、加工方法を学ぶ。)
9回目	音編集/MA~完成 (音編集ソフトを使って音声編集を行う。音声ファイルの種類と用途について学ぶ。現場音やBGM、効果音、ナレーションなどの音を加工編集して、映像と合成して動画を完成させる。)
10回目	動画の保存と公開 (画像や動画、音声のファイル管理について学ぶ。用途別の動画書き出し方と公開方法を学ぶ。著作権や肖像権について学ぶ。)
11回目	作品制作実践① (一人1作品を制作実践する。)
12回目	作品制作実践② (一人1作品を制作実践する。)
13回目	作品発表及び鑑賞会① (一人ずつ自分の作品を発表する。人の作品を鑑賞することによって自分の作品の良いところと欠点に気づくことも学習)
14回目	作品発表及び鑑賞会② (一人ずつ自分の作品を発表する。人の作品を鑑賞することによって自分の作品の良いところと欠点に気づくことも学習)
15回目	総評/まとめ (全ての作品を鑑賞しての意見交換と総評 ※スマホだけで作る動画制作を学ぶ)

準備学習
時間外学習

評価方法

授業内評価 20% ・期末試験(作品評価) 80%

【使用教科書・教材・参考書】 □

動画によるWeb広告戦略 (2019年度版)

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	内定者研修 (Practical Training)	必修 選択	必修 選択	年次	卒業年次	担当教員	就職内定先企業
	専攻名 水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	45 (3)	開講区分 曜日・時限	前期 随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先で実践的な研修など現場経験を積むことで、卒業時に即戦力として活躍できるようになる。

【到達目標】

1. 就職内定先で業務を行う上で必要な経験を積み、卒業時には即戦力として活躍できる人材になる。
2. 就職内定先で業務を行う上で必要な専門知識・技術を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。
3. 就職内定先で業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	就職内定先において業務経験を積む (1)
2回目	就職内定先において業務経験を積む (2)
3回目	就職内定先において業務経験を積む (3)
4回目	就職内定先において業務経験を積む (4)
5回目	就職内定先において業務経験を積む (5)
6回目	就職内定先において業務経験を積む (6)
7回目	これまでの業務のまとめと振り返り
8回目	就職内定先において業務経験を積む (7)
9回目	就職内定先において業務経験を積む (8)
10回目	就職内定先において業務経験を積む (9)
11回目	就職内定先において業務経験を積む (10)
12回目	就職内定先において業務経験を積む (11)
13回目	就職内定先において業務経験を積む (12)
14回目	これまでの業務のまとめと振り返り
15回目	今後の課題とその対策をまとめる

準備学習 時間外学習	業務中に学んだこと、気づいたことなど、メモした内容を、ノート、word、excel、にまとめる。
---------------	--

評価方法	日々の業務における日報を就職内定先に提出し、就職内定先の方との面談による振り返りを行い、業務の習得度合いで評価を行う(100%)。
------	---

【使用教科書・教材・参考書】

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	内定者研修 (Practical Training)	必修 選択	必修 選択	年次	卒業年次	担当教員	就職内定先企業
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	45 (3)	開講区分 曜日・時限	後期 随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先で実践的な研修など現場経験を積むことで、卒業時に即戦力として活躍できるようになる。

【到達目標】

1. 就職内定先で業務を行う上で必要な経験を積み、卒業時には即戦力として活躍できる人材になる。
2. 就職内定先で業務を行う上で必要な専門知識・技術を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。
3. 就職内定先で業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	就職内定先において業務経験を積む (1)
2回目	就職内定先において業務経験を積む (2)
3回目	就職内定先において業務経験を積む (3)
4回目	就職内定先において業務経験を積む (4)
5回目	就職内定先において業務経験を積む (5)
6回目	就職内定先において業務経験を積む (6)
7回目	これまでの業務のまとめと振り返り
8回目	就職内定先において業務経験を積む (7)
9回目	就職内定先において業務経験を積む (8)
10回目	就職内定先において業務経験を積む (9)
11回目	就職内定先において業務経験を積む (10)
12回目	就職内定先において業務経験を積む (11)
13回目	就職内定先において業務経験を積む (12)
14回目	これまでの業務のまとめと振り返り
15回目	今後の課題とその対策をまとめる

準備学習 時間外学習	業務中に学んだこと、気づいたことなど、メモした内容を、ノート、word、excel、にまとめる。
---------------	--

評価方法	日々の業務における日報を就職内定先に提出し、就職内定先の方との面談による振り返りを行い、業務の習得度合いで評価を行う(100%)。
------	---

【使用教科書・教材・参考書】

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	特別研究課題 (Advanced Research Project from a Workplace)	必修 選択	必修 選択	年次	卒業年次	担当教員	就職内定先企業
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分 曜日・時限	前期 随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先から従来の業務を改善する課題をいただき、どのような改善を行うことが作業の効率化が図れるか、これまで身につけた専門知識技術を総合的に発揮できるようになる。

【到達目標】

1. 就職内定先の業務を把握することができる。
2. 業務の改善を必要とする課題を見つけ報告ができる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	就職内定先の業務を把握するために現場での経験を積む (1)
2回目	就職内定先の業務を把握するために現場での経験を積む (2)
3回目	就職内定先の業務を把握するために現場での経験を積む (3)
4回目	就職内定先の業務を把握するために現場での経験を積む (4)
5回目	就職内定先の業務を把握するために現場での経験を積む (5)
6回目	就職内定先の業務を把握するために現場での経験を積む (6)
7回目	就職内定先の業務を把握するために現場での経験を積む (7)
8回目	就職内定先の業務を把握するために現場での経験を積む (8)
9回目	就職内定先の業務を把握するために現場での経験を積む (9)
10回目	就職内定先の業務を把握するために現場での経験を積む (10)
11回目	現場経験から業務の改善を必要とすることを見つける (1)
12回目	現場経験から業務の改善を必要とすることを見つける (2)
13回目	業務の改善を必要とすることを課題としてまとめる (1)
14回目	業務の改善を必要とすることを課題としてまとめる (2)
15回目	業務の改善を必要とすることを課題を報告する
準備学習 時間外学習	現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excelにまとめる。
評価方法	現場経験を積み途中で、業務日報を毎日記入して提出し現場担当者に見てもらいながらディスカッションを重ねる。また、それらから業務改善の課題を絞り報告内容によって評価する(100%)。

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	特別研究課題 (Advanced Research Project from a Workplace)	必修 選択	必修 選択	年次	卒業年次	担当教員	就職内定先企業
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分 曜日・時限	後期 随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先から従来の業務を改善する課題をいただき、どのような改善を行うことが作業の効率化が図れるか、これまで身につけた専門知識技術を総合的に発揮できるようになる。

【到達目標】

1. 業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアをまとめることができる。
2. 課題を解決するアイデアを実践することができる。

授業計画・内容

1回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (1)
2回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (2)
3回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (3)
4回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (4)
5回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (5)
6回目	課題を解決するアイデアを報告し、質疑応答を行う
7回目	課題を解決するアイデアのブラッシュアップを行う (1)
8回目	課題を解決するアイデアのブラッシュアップを行う (2)
9回目	ブラッシュアップしたアイデアを報告し、質疑応答を行う
10回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する (1)
11回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する (2)
12回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する (3)
13回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する (4)
14回目	検証結果をまとめる
15回目	検証結果の報告を行い、今回の課題改善の振り返りを行う
準備学習 時間外学習	現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excelにまとめる。
評価方法	課題を解決するアイデアを実践することで得られた結果を検証し、その報告内容によって評価する(100%)。

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	卒業企業課題 (Practical Assignment from a Workplace)	必修 選択	必修 選択	年次	卒業年次	担当教員	就職内定先企業
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分 曜日・時限	前期 随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先よりお客様が喜ぶようなイベントを考える課題をいただき、イベントの企画・立案を行う。プレゼンテーション後に企画が採用されたら、その企画を実践する。実施後には、振り返りを行い就職後の業務に活かす。

【到達目標】

1. お客様が喜ぶイベントの企画を立案することができる。
2. 企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションすることができる。
3. 採用されたイベント企画を実践することができる。

授業計画・内容

1回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる (1)
2回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる (2)
3回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる (3)
4回目	お客様に合うイベントを企画・立案する (1)
5回目	お客様に合うイベントを企画・立案する (2)
6回目	お客様に合うイベントを企画・立案する (3)
7回目	企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションする
8回目	プレゼンテーションでいただいた意見を参考に企画をブラッシュアップし、再度プレゼンテーションする
9回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする (1)
10回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする (2)
11回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする (3)
12回目	企画したイベントの実践 (1)
13回目	企画したイベントの実践 (2)
14回目	企画したイベントの実践 (3)
15回目	イベントの振り返りとまとめ

準備学習
時間外学習

現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excelにまとめる。

評価方法

イベントの企画・立案力:30%
 プレゼンテーション力:30%
 実践力:40%
 上記の3段階に分けて、それぞれの評価を行う。

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

水族館・アクアリスト専攻

科目名 (英語表記)	卒業企業課題 (Practical Assignment from a Workplace)	必修 選択	必修 選択	年次	卒業年次	担当教員	就職内定先企業
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分 曜日・時限	後期 随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先よりお客様が喜ぶようなイベントを考える課題をいただき、イベントの企画・立案を行う。プレゼンテーション後に企画が採用されたら、その企画を実践する。実施後には、振り返りを行い就職後の業務に活かす。

【到達目標】

1. お客様が喜ぶイベントの企画を立案することができる。
2. 企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションすることができる。
3. 採用されたイベント企画を実践することができる。

授業計画・内容

1回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる (1)
2回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる (2)
3回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる (3)
4回目	お客様に合うイベントを企画・立案する (1)
5回目	お客様に合うイベントを企画・立案する (2)
6回目	お客様に合うイベントを企画・立案する (3)
7回目	企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションする
8回目	プレゼンテーションでいただいた意見を参考に企画をブラッシュアップし、再度プレゼンテーションする
9回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする (1)
10回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする (2)
11回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする (3)
12回目	企画したイベントの実践 (1)
13回目	企画したイベントの実践 (2)
14回目	企画したイベントの実践 (3)
15回目	イベントの振り返りとまとめ

準備学習
時間外学習

現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excelにまとめる。

評価方法

イベントの企画・立案力:30%
 プレゼンテーション力:30%
 実践力:40%
 上記の3段階に分けて、それぞれの評価を行う。

【使用教科書・教材・参考書】 □